

## コメント

同居していた兄との関係が悪く、ホームレスのような生活をし、金がなくなると置引きや万引き等をして再三逮捕され、執行猶予から実刑（２回）となった事例です。

退所当日から当施設において短期入所で受け入れました。そして、モニタリングを重ねる中で、目標が「アパートでの一人暮らし」と定まり、より適切な支援ができる施設ということで、６か月後に精神障害者生活訓練施設に移行することになりました。

この間の感想・課題については次のとおりです。

- ・ 勾留中に担当弁護人が関係者に成年後見制度の利用を勧め、市を中心とした関係者協議を経て、施設入所前には保佐人が選任されたため、当施設の入所相談は比較的スムーズに開始することができた。
- ・ 地域生活定着支援センターもなく、事前面接も行わなかった（行えなかった）ことから、本人の状況等は実際に入所してからでないとよく分からなかった。
- ・ 感情表出が乏しいこともあって、入所後も本人の希望がよく把握できない中、市担当者等が当施設への長期入所を強く勧めるなど、長期目標がなかなか定まらなかった。
- ・ しかし、保佐人、市担当者、途中からは相談支援専門員等必要な関係者も加わり、月１～２回のペースで個別支援会議を開きながら、モニタリング再アセスメント）と支援計画の修正を重ねていくことができた。このため当施設も安心して支援を続けることができた。

今後、地域生活定着支援センターが全国に整備され、事前に矯正施設にも入って相当なアセスメントができるようになると思いますが、「矯正施設を退所した」ということで、受入れをためらう施設もまだまだ多いと予想されます。受入れを進めるためには、当初から区市町村（必要により相談支援事業者）がきちんと関与する体制を作ることが重要だと考えます。

本事例が精神障害者生活訓練施設へ移行する際も、区市町村及び相談支援事業者がきちんと関与していることによりスムーズな受け入れにつながりました。

## △事例 ②

### — B さんの概要

男性・36才

矯正施設から、障害者支援施設に入所し、就労移行支援事業を受けながら、ケアホーム入居を目指しています。

## ① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名	B さん	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成 47 年 〇 月 〇 日 （ 36 才）		
本 籍	〇〇県〇〇町		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇町	
	住所地(住民票のあった所)	〇〇県〇〇町	
矯正施設名	〇〇刑務所（〇〇〇県〇〇市）		
本件犯罪 (非行)内容	窃 盗 駐車中の普通貨物自動車内から、現金約2万円窃取。  懲役1年2ヶ月		
本件に至った 経緯・要因	前日、一人で〇〇市に出かけたが、帰れなくなり警察に保護を求め、〇〇郡の役場職員に迎えに来て貰う。その晩は役場の施設に泊まる。翌日、職員が朝食を食べているように伝え、職員が離れた際に出かけ、近所で朝食をご馳走になるが、その道中で本事件を起こす。		
帰住予定地	未定		
刑期満了日	平成 21 年 〇 月 〇〇 日 （仮釈放 平成 21 年 〇 月〇〇 日）		
家庭環境	<div>         両親・家族等          父は、本人25歳時に死亡。          貧困家庭で、本人5歳時に両親離婚。          母親との交流はない。弟は、出産時に死亡。       </div> <div> </div> <div>         祖父母・親戚等          祖父母は他界、親戚は出身地に居住しているが、関わりを拒否。       </div> <div>         経済状況       </div>		

生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴</p> <p>本人5歳頃両親離婚。父親に育てられるが、低知の為小学低学年は虐められる。小学5年時〇〇学園入所、施設より小・中学校へ通う。卒業後、授産施設、病院、更生・授産福祉施設等を利用するが、自立した生活ができず窃盗事件を再三起こし矯正施設に入所する。</p> <p>学校・施設・就職経歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護施設のある〇〇小学校・中学校を卒業する。成績下位。 △窃盗（〇〇鑑別所3回 〇〇医療少年院）</li> <li>・中学卒業後は、〇〇町の知的障害者授産施設に入所（約15年）。</li> <li>・30歳時、〇〇病院に入院（1年）。退院後、別の病院に入院（1年5ヶ月）</li> <li>・病院退院後、〇〇園に入所。1ヶ月後、窃盗事件を起こし退所。執行猶予</li> <li>・役場の世話で、〇〇市にて单身生活。1ヶ月後退去し、所持金なく窃盗事件を起こす。〇〇刑務所2年10ヶ月（前刑懲役加算）</li> <li>・満期出所後、出身地である〇〇郡にて生活。</li> <li>・平成20年〇月〇〇日窃盗（本件の惹起） 再犯期間〇月〇〇日</li> </ul>
心身状況	<p>知能指数 IQ 30代 田中ビネー・WISCⅢ（言語性 ）（動作性 ）</p> <p>CAPAS（ 検査日 平成 年 月 日 ）</p> <p>身長 〇〇〇 cm 体重 〇〇 kg</p> <p>身体障害 なし</p> <p>精神疾患 軽い意識障害 せん妄症状が伺える</p> <p>内部疾患 なし</p> <p>服薬状況 頓服として服用 安定剤・睡眠導入剤 ※イライラ時、不眠時に服用の指示であるが、毎日服用していた。</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 <input checked="" type="checkbox"/>（判定 <input type="checkbox"/> 判定日 判定機関 ）・無</p> <p>身障手帳 有（判定 判定日 判定機関 ）・無</p> <p>これまで受給していた福祉サービス 施設入所（養護施設・知的障害者授産施設）</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み （ 円 円） 障害基礎年金等年金の取得 <input checked="" type="checkbox"/>（ ）・無 約200万円の預貯金有り。役場にて通帳管理。</p>
本人の意思確認 （主 訴）	<p>面会時に〇〇園が障害者の施設であることを伝え、釈放後の選択肢として考えてみて欲しいと伝えると本人よりとすぐに「行きたい」と明言する。</p>

<p>施設を利用を必要とする理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 帰住予定地もなく、矯正施設を退所後直後に何らかの罪を犯す可能性が高く、福祉サービスの活用により、一時的に生活の場を確保し、自立に向けての支援を必要としている。</li> <li>● 更生保護施設を希望していたが、受け入れを拒否されている。</li> <li>● 自立した生活に対する意欲が低く、福祉施設の利用及び、就労による生活の安定から再犯に結び付けない支援が求められている。</li> <li>● 就労にあたっては、福祉的就労が想定されるが事前の訓練が必要である。</li> <li>● ○○園の利用について前向きである。</li> </ul>
<p>当面の処遇方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活に向けての自立心と労働意欲を高めつつ、生活基盤の整備（就労・衣食住）をおこなったうえで、可能な限り短期間での地域移行を目指す。</li> <li>● 援護の実施者に対して、地域生活への移行とその後の支援を要請する。</li> <li>● 就労移行支援事業を行うことで、就労意欲・体力・集中力等の支援を行い、一般就労・福祉的就労に向けての取り組みを進める。</li> <li>● 入所後直ちに精神科を受診し、医療の継続を行なう。</li> <li>● 本人のこころのよりどころとなるよう担当者が支援する。</li> <li>● 本人の生活の目標を明確にする。</li> <li>● 本人への遵守事項・禁止事項を設定し、矯正施設入所中に施設を通して遵守の確認を取る。</li> <li>● 居住寮は固定せず、生活寮、職員宿舎、ケアホーム、一般アパート等を検討する。</li> <li>● 職員間で統一した支援を行えるよう事前研修を行う。</li> </ul>



## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
罪の認知 (窃盗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の行なった行為が犯罪であることを知りつつも、罪悪感希薄である。</li> <li>●社会のルールを理解が低かった。</li> </ul>	●施設生活のルールを守る。	コミュニケーション 法令遵守
生活の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活に困窮した。</li> <li>●計画的な支出ができなかった。</li> <li>●社会的な生活技能が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画的な支出ができる。</li> <li>●生活の場の確保 (施設入所支援)</li> </ul>	所得保障
相談相手	●感情をコントロールする事が苦手で、自己中心的な行動が見られる。	●適切な精神科受診	医療的ケア
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一方的な思いが強く、話を聞いて貰えない、思い通りにならない等でイライラする。</li> <li>●信頼できる相談相手がいなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自らの気持ち、思いを表現する。</li> <li>●キーパーソンの確保</li> </ul>	コミュニケーション
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仕事が続かない。</li> <li>●仕事に必要なルール等が身に付いていなかった</li> </ul>	●就労する	就労
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意識障害、せん妄状態が疑われる。</li> <li>●情緒不安定時に内服薬を服用していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康診断</li> <li>●必要な治療</li> <li>●薬の調整</li> </ul>	医療的ケア

### ③ プランニング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	B さん	記録日	平成 年 月 日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
コミュニケーション	自らの気持ち、思いを表現する。	キーパーソンの担当者 （各場面で設定）  就床前に話し合いを行う 日記の記載 作業終了時に話し合いを行う	毎日  毎日  月～金曜日	生活支援 地域支援 作業支援 生活支援  作業支援
法令遵守	施設生活のルールを守る。	就床前に話し合いを行う 日記の記載 決められた場所、本数の喫煙  作業終了時に話し合いを行う 他の利用者と仲良くする 無断で出かけない	毎日  毎日 当初（3本） 徐々に緩和 毎日  随時 随時	生活支援 地域支援   作業支援  施設全体 施設全体
所得保障	計画的な支出をする。	障害者年金を再開する 施設作業に参加し給与を得る。	入所時 月1回支給	援護の実施者 作業支援
医療的ケア	向精神薬の調整。	健康診断の実施 精神科受診、内服薬の調整 臨床心理士による心理科セラピー	入所時実施  月1回	診療所 内科、心理科  心理士
就労	就労する（一般就労、福祉的就労B型）を目指す。 ・就労意欲の向上 ・体力、集中力の向上 ・作業能力、適性の把握	就労移行支援事業を行う ・施設内作業に参加 ・施設外作業に参加 ・職場実習に参加 ・職業判定を受ける ・ハローワークに登録 ・生活・就労支援センターに登録	2年間 月～金曜日 9時から 5時30分	作業支援

④ モニタリング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	B さん	記録日	平成21年 〇月〇〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
地域生活に向けて自立心と労働意欲を高めつつ、生活基盤の整備（就労・衣食住）を行ったうえで、可能な限り短期間で地域移行を目指す。		徐々に自分の居場所を見つけている。 施設という環境自体が、本人の活動を制限する事になり、早期に地域での生活を準備する。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
コミュニ ケーショ ン	自らの気持ち、思いを表現する。	就床前の話し合い、日記の記載については、定着している。	計画通り実施 日記の記載内容については、毎回同じような内容である。時々、拒否をするが約束であることは理解している。時々、情緒不安定となり、攻撃的な言葉を使うことが見られる。本人の気持ちを言葉として表現している事については否定できないが、言葉の使い方、表現方法について、話し合っている。
		各場面においてキーパーソンを設定。 情報の共有、支援の統一を行った。	キーパーソンを決めることにより、本人との関係構築がスムーズにできた。しかし、逆にキーパーソンの存在を意識している様子も伺える。職員を使い分けしているところも見受けられ、情報の共有、支援の統一が重要になっている。

法令遵守	施設生活のルールを守る。	<p>3回所在不明となり、職員が搜索する。その他、短時間の所在不明が見られる。</p> <p>毎日決められた本数を手渡す事により、本数については、守られているが、ライターを無断で所持をしたり、トースターで火をつけるなどの行為が確認できている。</p> <p>生活の場を、施設内から職員宿舎に移した。</p>	<p>所在不明時の対応方法について、本人の特性を把握してマニュアルを作成した。職員宿舎を利用しての生活体験中のため、宿舎在住者に情報の発信を行った。</p> <p>入所当初は、禁煙していたが、本人の要望にて、3本/日喫煙し始めるが、徐々に本数増の要望があり、現在では10本/日喫煙している。ライターは、職員管理しているが、無断で所持をしたり、トースターで火をつけている。また、喫煙場所を守れない事もある。</p> <p>生活の場を移し、社会生活のルール・マナーの習得を行う。行動範囲が広がり、本人なりに楽しんでいる様子が伺えるが、深夜に出掛ける、無断で電話を掛ける（警察、消防、タクシー等）等の問題が発生している。</p>
所得保障	計画的な支出ができる。	<p>障害基礎年金を再開した。</p> <p>施設作業に参加し給与を得る。</p>	<p>手続き終了</p> <p>施設内外の作業に参加する事により、15,000 円(／月)程度の収入を得ている。</p>
医 療 的 ケ ア	向精神薬の調整。	向精神薬の調整をした。	断薬することができた。



## コメント

### 支援に必要なポイント！！

- ・関わる人が、同じ方向を向いて取り組まなくては、支援なんてできない。
- ・一人で抱え込まない、自ら情報発信。
- ・他人任せにしない、自ら情報収集。
- ・本人からの情報の突き合わせ。真実、思いの汲み取り。
- ・本人からの「話を聞いて」のサインを見逃さない。後回しにしない。

△事例 ③

C さんの概要

男性 28才

矯正施設から、障害者支援施設に入所し、就労移行支援事業の中でトライアル雇用  
経て就職し、アパート暮らしを行っています。

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな)			
氏 名	C さん	性 別	①男 女
生年月日	昭和・平成 56年 〇月 〇〇日 ( 28 才)		
本 籍	〇〇県〇〇市		
矯正施設前居	居住地（生活実態のあった所）	××県××市	
	住所地（住民票のあった所）	△△県△△市	
矯正施設名	□□刑務所		
本件犯罪（非行） 内容	窃盗 ①駐車中の乗用車から財布を窃盗するなど同様の犯行10件程度 懲役10ヶ月 執行猶予 ②デパート食品売場にて菓子6点(¥650円)を万引き 懲役6ヶ月 執行猶予取消し、前刑懲役加算		
本件に至った経緯・要因	生活に困窮し、食べるものも無く菓子を盗む（店を出た時点で店員に捕まり警察に引き渡される（弁当が欲しかったが、かさ張り目立つと思い菓子を盗んだ）		
帰住予定地	未定（□□県の更生保護施設を希望）		
刑期満了日	平成 21年 〇月 〇〇日		
家庭環境	<div>両親・家族等 母親健在、3人兄弟（兄2人）の末養育できず、すぐに乳児院に本人のみ預けられる。 祖父母・親戚等 祖父母は他界、親戚のほとんどは他県に在住 経済状況 被保護世帯ではないが、生活は苦しい。</div> <div></div>		
生育歴	幼児期からの主要な経歴 出生後にすぐに乳児院に預けられる。その後小学校卒業まで養護施設にて過ごす。中学入学時より家族と生活を開始するが、家族との生活になじめず。		

生 育 歴	<p>学校・施設・就職経験</p> <p>小学校は、養護施設のある〇〇市の小学校の特殊学級を卒業、中学からは自宅のある〇〇市の地元中学（特殊学級）に通う。中学卒業後は、地元のコンビニエンスストアに就職、しばらく勤めるが店長と折り合いが悪く、仕事を辞める。その後、関東地区の職場を転々とする。（解体業・工場の季節労働・パチンコ店店員・人材派遣他）</p>
心 身 状 況	<p>知能指数 IQ 40代 田中ビネー・WAIS-R（言語性 ）(動作性 CAPAS（検査日 平成 年 月 日）</p> <p>身 長 〇〇cm 体 重 〇〇kg</p> <p>身体障害 なし</p> <p>精神疾患 適応障害（うつ）</p> <p>服薬状況 朝 昼 夕 就 安定剤・睡眠導入剤（向精神薬・うつ治療薬・眠剤）</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 有（判定 判定日 判定 ・ 無</p> <p>身障手帳 有（判定 判定日 判定 ・ 無</p> <p>これまで受給していた福祉サービス</p> <p>施設入所（乳児院・養護施設）調書からは療育手帳を所持していることが判明してるが、本人は知らず</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み （約3,000円）</p> <p>障害基礎年金等年金 有（ ） 無</p>
<p>本人の意思確認</p> <p>施設利用を必要とする理由</p>	<p>面会時に受入予定施設の「〇〇園」が障害者の施設であることを伝え、釈放後の選択肢として考えてみて欲しいと伝えたと本人よりとすぐに入れて欲しいと明言する。</p> <p>●帰住予定地もなく、所持金も極めて少ないことから矯正施設を退所直後に何らかの罪を犯す可能性が高く、福祉サービスの活用により、一時的に生活の場を 確保し、自立に向けての支援を必要としている。</p> <p>●〇〇〇県の更生保護施設を希望していたが、所持金が少なくそこまでたどり着けない可能性がある。</p> <p>●就労に関する意欲が高く、一時的な福祉施設の利用及び、就労による生活の安定から再犯に結び付けない支援が求められている。</p> <p>●施設の利用について前向きである。</p>



<p>当面の処遇方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自立意欲も高く、就労への意識も特に高いと考えられるので、短期間の福祉施設の利用（3ヵ月～6ヶ月程度）で本人の希望する地域での生活をめざし、就労移行支援を行う。</li> <li>● 障害福祉サービスの受給、生活保護等の所得保障を整える。</li> <li>● 所当初よりハローワーク等に出向き、一般就労に向けての取り組みを進める。</li> <li>● 入所後直ちに精神科を受診し、医療の継続を行なう。</li> <li>● 本人のこころのよりどころとなるよう担当者が支援する。</li> <li>● 本人の生活の目標を明確にする。</li> <li>● 本人との約束事・禁止事項を設定し、受刑中に刑務所を通して遵守の確認をとる。</li> <li>● 居住寮は固定せず、生活寮、職員宿舎、地域体験ホーム、一般アパート等を検討する。</li> <li>● 職員間で統一した支援を行えるよう事前研修を行う。</li> </ul>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援目標	領 域
罪の認知 (窃盗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の行なった行為が犯罪であることを知りつつも、仲間の誘いを断りきれずに犯行に加担する。</li> <li>●生活に困窮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交友関係の正常化 (悪い仲間との交流を行なわない)</li> <li>●生活の場の確保</li> <li>●再犯防止に向けて本人の意識作り</li> </ul>	ミニケーション 法令遵守  所得保障  法令遵守
生活難	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定をした生活資金が無かった</li> <li>●社会的な生活技能が低かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活の場の確保 (施設入所支援)</li> <li>●生活保護の申請</li> </ul>	所得保障
相談相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同僚や上司との関係が上手くいかず、適応障害(うつ)となり、離職する。</li> <li>●利用されていたことを知らずに犯行に加担する。</li> <li>●信頼できる相談相手がいなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科受診</li> <li>●薬の調整</li> <li>●ミニケーションスキルの習得</li> <li>●キーパーの確保</li> </ul>	医療的ケア  ミニケーション  ミニケーション
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仕事が続かなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就労支援を行なう</li> </ul>	就労
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鼻炎がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康診断</li> <li>●必要な治療</li> </ul>	医療的ケア

### ③ プランニング表 (個別支援計画)

氏 名	C さん	記 録 日	平成21年 ○ 月 ○ 日		
支援目標	領域	支援方法	具体的支援方法	頻度・時間	担当者
1.安心できる生活の場の確保	法令遵守	遵守事項の設定	①入所前より矯正施設を通じて施設生活における遵守事項を設定 ②入所時に施設長より遵守事項の確認を行う	入所前 入所時 随時	生活担当 地域担当 施設長 生活担当
2.信頼できる人間関係の構築			③ミーティングを活用して必要に応じて遵守事項の確認を行なう		
3.就労による所得保障と生きがいづくり	生活基盤の確保	施設入所支援 生活保護受給	①施設入所支援の手続き（療育手帳・障害程度認定調査） ②生活保護申請（地域生活後は生活保護を解除する） ③必要に応じ障害基礎年金の申請 ④安心できる生活の場を提供	入所前 入所前 必要時 随時	地域担当 地域担当 地域担当 生活担当
4.就労に向けての健康づくり	生活技能	段階的支援	①生活寮は固定せず、本人の状況を確認しながら地域生活に向けてステップアップを行なってゆく ②生活場面での自らの生活や役割等を通じて技能を学ぶ。また承認体験を重ねる事により、自信をつける。 ③余暇の過ごし方を学ぶ（趣味・特技等の開発、充実など）	随時 随時 随時	生活担当 生活担当 生活担当
5.地域生活移行	コミュニケーション	スキルの向上	①キーパーソンを設定し、何でも相談のできる体制を確保する （本人のとまどいが生じないよう窓口を一本化する） ②日記を基に支援者と毎日ミーティングを実施し本人の特徴を把握しながらコミュニケーションの方法を学ぶ	入所時から 随時	生活担当 生活担当
	就労	適正判断 スキルの習得 雇用先確保	①本人の状態を確認しながら適性の判断を行う ②就労を視野に必要な基本的態度や能力・方法、経験を身につける ③具体的な就労先を開拓する（トライアル雇用など）	入所時から 随時 必要時から	就労担当 就労担当 就労担当
	健康	健康づくり	①健康診断を実施し、状態を把握する ②必要な治療を行なう。	入所時 随時	生活担当 医師
	地域生活移行	自立した生活	①入所時より地域生活移行を想定して移行先の選定を行なう ②必要に応じて具体的な移行先との調整を行なう ③移行後も相談できる場所を確保（バックアップ施設等の確保）	入所時から 必要時 必要（随時）	地域担当 地域担当 地域担当

④ モニタリング表 (個別支援計画)

氏 名	C さん	記 録 日	平成21年 ○ 月 ○ 日
領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否または内容
法令遵守	施設生活における約束事を守る	①示された約束事をきちんと守り行動できている。	施設での生活は問題なく過ごせたが、今後の自立生活に向けては自立した生活が求められる。
生活基盤の確保	安心できる生活の場の確保	①生活保護と就労支援により福祉施設での生活は確保できた。 ②預貯金は徐々に本人との話し合いの下、少しずつ貯めることが出来ている。 ③過去の借入金が判明し、返済に向けた計画を考えなくてはならない状況となった。 ④地域生活移行に向けて、生活保護を矯正施設所在地から、住所地に変更する必要がある。	就労と生活保護を継続。 継続 具体的な返済計画を立てる。 自立支援協議会での議論
生活技能	地域生活移行に向けた段階的支援  自らの役割から生活技能を学ぶ 余暇の過ごし方を学ぶ	①重度の障害者との生活を離れ、体験ホームでの生活に慣れてきている。自立を考えると、食生活への支援が必要と思われる。 ②体験ホームでの役割も積極的に担っている。 ③余暇は提供されたものは、積極的に参加できるが、一人では楽しみを見つけないことが出来ない。	食生活への支援を継続  終了 継続して余暇支援に当たる。
コミュニケーション	コミュニケーションスキルの向上	①毎日の話し合いから、悩み事を話したり相談することや出来るようになった。 ②支援者とは良好な関係が保てているが、なれてくると横柄な態度となったり、関係性を無視した口の利き方をする場面が見られる。	継続（自立生活後もバックアップ施設としての機能をもつ）
就労	就労に必要な態度や能力、経験を身につける	①施設内での就労支援では、積極的に役割を果たすことが出来るようになった。 ②職場体験において、職場内でのコミュニケーションが上手いかず、会社との関係が悪くなり、職場体験を終了せざるを得なかった。 ③職場の態度では慣れてくると、口の利き方が悪くなるなどの問題があった。 ④過去の経歴を自らしゃべってしまうことがあった。 ⑤職場体験から、トライアル雇用に結びつけることも出来、就労への方向性を作る ことが出来た。	終了 継続支援 継続

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否または内容
健康	健康づくり	<p>①鼻炎・歯科の治療を行い、終了した。</p> <p>②体調が良くなるにつれ、不眠を訴えることが少なくなり、睡眠薬を使用しなくなっていたが、夜間の勤務から生活リズムを作ることが難しくなり、再び睡眠薬を使用するようになった。</p> <p>③腰痛を訴えることがあり、自分の体に負担をかけないことなど日頃からの注意や休養を取ることの必要性を認識できるようになった。</p> <p>④トライアル雇用を中断せざるを得ないほど、痔が悪化をしたため手術をして切除した。</p> <p>⑤過去において、薬物の使用が明らかとなり、新たに薬物使用者に対するプログラムが必要となった。</p>	<p>終了 精神科の継続</p> <p>見守り</p> <p>終了（継続的な見守り）</p> <p>精神科医への継続的な受診とカウンセリング</p>
地域生活移行	自立した生活をめざす	<p>①福祉施設入所時より、アパートでの自立生活をめざし本人の意識付けをおこなった。</p> <p>②関係する機関とは調整を図り、自立支援協議会での議論を経ながら生活保護の援養機関の変更を行なった。</p> <p>③施設に近いところに、住むことを前提として、バックアップ施設の認識を本人に持ってもらえるようにした。</p>	<p>終了</p> <p>終了</p> <p>継続</p>

△事例 ④

D さんの概要

男性・59才

矯正施設から、救護施設に入所し、地域移行を目指しています。

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな)			
氏 名	M S	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成 25 年 〇〇 月 〇〇 日 ( 59才)		
本 籍	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇		
矯正施設前居住地	居住地生活実態のあった所	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇	
	住所地（住民票のあった所）	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇	
矯正施設名	〇〇刑務所（〇〇〇県〇〇市）		
本件犯罪 (非行内容)	常習累犯窃盗 道路交通法違反 30歳の時窃盗で逮捕服役する。その後家もなく、金もなく窃盗等を繰り返し現在まで20回の服役がある。		
本件に至った 経緯・要因	家族と疎遠で、矯正施設を退所後帰る家もなく1週間から10日程度で金もなく、住むところもなく、窃盗等を繰り返していた。 (住むところがなく、車を盗み、無免許で運転していた)		
帰住予定地	出身地近くの施設入所を希望		
刑期満了日	平成 21年 〇月 〇〇日 (仮釈放 平成 年 月 日)		
家庭環境	<p>両親・家族等</p> <p>農業を営む両親のもと、兄弟4人の末っ子として出生。両親はすでに死亡。 兄・姉とは 疎遠、交流なし。</p> <p>祖父母・親戚等</p> <p>祖父母は死亡 親戚は不明</p>		
身元引受人	<p>経済状況</p> <p>施設入所と同時に生活保護申請の予定であり、身元引受人についても福祉事務所で検討する予定。</p>		

生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴・学校・施設・就職経験</p> <p>地元の小・中学校卒業後、〇〇県内で呉服店、運送、運転助手、土木関係の日雇い等に就く。</p>
心身状況	<p>知能指数 IQ 70代 田中ビネー・WISCⅢ (言語性 IQ 〇〇) (動作性 IQ 〇〇)</p> <p>CAPAS ( 検査日 平成 年 月 日 )</p> <p>身長 〇〇〇cm 体重 〇〇kg</p> <p>身体障害</p> <p>精神疾患 統合失調症</p> <p>内部疾患</p> <p>服薬状況 向精神剤</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 有判定 判定日 判定機関 )・無</p> <p>身障手帳 有判定 判定日 判定機関 )・無</p> <p>精神保健福祉手帳 2級 交付日 平成21年〇月〇〇日</p> <p>これまで受給していた福祉サービス</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み ( 約70,000 円)</p> <p>障害基礎年金等年金の取得 有 ( )・無</p> <p>生活保護 (施設入所後施設所在地市町村にて取得予定)</p>
本人の意思確認 (主 訴)	<p>面会時、施設の概要説明（パンフや写真を見てもらう）を行い、本人の入所希望の意思を確認する。施設での生活となれば集団生活であるため、多少のトラブルは我慢するとの発言あり。</p>
施設を利用を必要とする理由	<p>●過去に20回もの入退所を繰り返していることから、同様に退所後すぐに罪を犯すことが考えられる。</p> <p>●更生保護施設の利用は過去に断られた経緯がある。</p> <p>●施設入所後、住む場所、日中の活動等、生活の組み立てを行えば施設での生活は安定することが予測できる。</p> <p>●就労の意欲もあり、訓練を通して就労、地域生活も期待できる。</p>
当面の処遇方針	<p>●施設入所と同時に生活保護受給の申請を行う。</p> <p>●規律ある生活、他の利用者と良い関係作りに努力する。</p> <p>●過去に犯した行為は決してしないことを確認する。</p> <p>●健康管理や栄養管理に努める。</p> <p>●施設内の作業活動を通して、集中力や協調性を養う。</p> <p>●就労、地域生活への意識を高める。</p>

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
罪の認知	●常習的犯罪行為であり自分で抑制することは難しい。	●再犯防止に向けて本人の意識作り	法令遵守
生活難	●安定した生活資金が無かった。 ●社会的な生活技能が低かった。	●生活保護の申請  ●施設入所支援 生活の場の確保と日中活動の場の確保	所得保障  生活基盤
相談相手	●両親はすでに死亡し兄、姉とも交流はなく疎遠である ●信頼できる相談相手がいらない。	●兄、姉との信頼できる人間関係づくり  ●信頼できる人間関係づくり	家族関係の修復  コミュニケーション
就労	●入所、退所を繰り返していたため、仕事に就くことは無かった。	●就労支援を行なう。	就労
健康	●20歳の頃統合失調症を発症。現在陽性症状等はない。 腸閉塞、腰痛あり	●健康診断	医療的ケア



③ プランニング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	Dさん	記録日	平成 21 年 〇月〇〇日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
法令遵守	再犯防止の意識を高める	遵守事項の設定 ①面会時施設生活の説明と遵守事項を確認する ②入所時施設長より遵守事項を確認する ③個別支援時を活用して必要に応じ遵守事項を確認する	入所前 入所時 随時	面会職員 施設長 施設担当者
生活基盤の確保	安心できる生活の場の確保	施設入所支援 ①施設入所支援の手続き（精神保健福祉手帳取得）	入所前	矯正施設担当者
生活技能	社会的生活技能を修得する	②生活保護申請 ③安心できる生活の場、日中活動の場の提供 ④施設生活を通して役割や責任を学ぶ ⑤金銭感覚を習得する ⑥交通機関や銀行等の社会資源を有効利用する ⑦余暇の過ごし方を学ぶ（趣味等）	入所時 随時 随時 随時 随時 随時	福祉事務所 施設担当者 施設担当者 施設担当者 施設担当者 施設担当者
コミュニケーション	信頼できる人間関係の構築	安心できる場の確保 ①キーパーソンを設定し、何でも相談できる体制を確保する ②家族との関係修復に努める	随時 随時	施設担当者 施設担当者 福祉事務所

就労	就労意欲の喚起、 動機付け	就労意欲の向上	必要時から	施設担当者
		①施設内作業を通して 集中力、継続性、協調 性を養う	必要時から	施設担当者
		②施設外作業を通して 就労を視野に必要な基 本態度や能力、方法、 経験を身につける	必要時から	施設担当者
地域生活 移行	地域生活移行	③本人に合った就労先を 開拓する	必要時から	施設担当者
		自立した生活	入所時から	施設担当者
		①入所時より地域生活移 行を想定し意識を高め る	必要時から	施設担当者
		②居宅生活訓練等を通し て地域生活の体験をす る	必要時から	施設担当者
健康	健康づくり	③必要に応じて具体的な 移行先などの調整を行 う	必要時から	施設担当者
		④移行後も相談できる場 所を確保する（バック アップ施設）	必要時から	施設担当者
		健康・栄養管理	入所時から	施設担当者
		①健康管理を実施し状態 を把握する	随時	施設担当者
		②早期発見、早期治療	随時	医師
		③必要な治療を行う		

④ モニタリング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	Dさん	記録日	平成21年〇〇月〇〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
言動に自信を持ち、自立のための各種訓練や体験を通して、早期に地域での生活に移行する。		本人なりに施設生活の中で、自分の役割や責任を感じ行動できている。作業活動も積極的である。就労し、地域生活へ移行するという意識を高めていく。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
法令遵守	再犯防止の意識を高める	入所当初は、過去の犯罪について自ら話すことがあったが、現在は控えている	必要に応じて、遵守事項を確認する
生活基盤の確保	安心できる生活の場の確保	精神保健福祉手帳取得 生活保護受給	終了 終了
生活技能	社会的な生活技能を修得する	話をする仲間もでき、外出なども楽しんでいる。計画的な金銭管理も可能である。	公共の交通機関や銀行、郵便局などの社会資源の有効利用について学ぶ
コミュニケーション	信頼できる人間関係の構築	入所前から関わっている職員が担当者であることから、不安時や訴えがあるときは、相談することが多くなっている。	今後も、信頼関係を維持しながら支援する。
家族環境整備	家族との関係修復に努める	福祉事務所を通して調整しているが改善は見られない	解決には時間が必要なためじっくりと取り組む
就労	就労意欲の喚起、動機付け	作業活動は積極的で能力も高い。協調性もあり、任された仕事は、責任をもって行なうことができる。	施設内作業から、地域の事業所に通勤し、長時間勤務する準備をする。
地域生活移行	地域生活移行	地域での生活に意欲を見せている。	アパートでの生活訓練の準備をする。
健康	健康づくり	食欲もあり、健康に過ごしている	毎日の健康チェックを継続する

△事例 ⑤

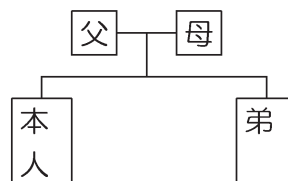
E さんの概要

男性・54才

矯正施設から、救護施設に入所し、地域移行をめざしています。

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名	E さん	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成 30 年 〇 月 〇〇 日 ( 54才)		
本 籍	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇		
指定入院医療機関 前居住地	居住地(生活実態のあった 所)	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇	
	住所地(住民票のあった 所)	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇	
指定入院医療機関 名	国立精神・神経センター(〇〇〇県〇〇市)		
本件犯罪 (非行)内容	傷害 母親に対する暴行		
本件に至った 経緯・要因	母親が自分に対して悪意を持っていると聞こえてきて、被害妄想により母に暴力を振るった。心神喪失による不起訴処分となり、医療観察法に基づく対象者となる。		
帰住予定地	出身地近くの施設入所を希望		
退院日	平成 20年 〇〇月 〇〇日		
家庭環境	<p>両親・家族等</p> <p>父はすでに死亡 母も平成19年〇月に死亡 弟は本人と一切かわりたくない、会うのも拒否している。</p> <p>祖父母・親戚等</p> <p>祖父母は死亡 親戚は不明</p>		
身元引受人	<p>経済状況</p> <p>指定医療機関に入院中に生活保護申請済み。弟は身元引受人を拒否出身地首長が身元引受人となる。</p>		



生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴・学校・施設・就職経歴</p> <p>地元の小・中・高等学校卒業後、調理師専門学校入学。その後調理関係の職場を転々とする。平成5年器物損壊にて検挙、懲役5ヶ月、執行猶予2年の判決を受ける。平成18年実家に戻り母親と二人暮らしだった</p>
心身状況	<p>知能指数 IQ70代 田中ビネー・WISCⅢ (言語性 ) (動作性)</p> <p>CAPAS ( 検査日 平成 年 月 日 )</p> <p>身長 〇〇〇cm 体重 〇〇kg</p> <p>身体障害</p> <p>精神疾患 統合失調症</p> <p>内部疾患</p> <p>服薬状況 向精神薬 安定剤〇〇〇</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・㊦</p> <p>身障手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・㊦</p> <p>精神保健福祉手帳 1級 交付日 平成20年〇月〇〇日</p> <p>これまで受給していた福祉サービス</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み (約200,000 円)</p> <p>障害基礎年金等年金の取得 有( )・㊦</p> <p>生活保護 (指定医療機関入院中に市町村にて取得済み)</p>
本人の意思確認 (主 訴)	<p>保護観察所の依頼で2回(1泊2日・2泊3日)の体験入所を実施。その際、本人の入所希望の意思確認を行う。</p>
施設を利用を必要とする理由	<p>●2回(1泊2日・2泊3日)の体験入所の結果、本人の入所意思確認ができたこと、また面接を通し施設での生活が可能と判断された</p> <p>●指定医療機関退院後、住む場所、日中の活動等提供し、生活の組み立てを行えば施設での生活は安定することが予測できる。</p> <p>●就労の意欲もあり、訓練を通して就労、地域生活も期待できる。</p> <p>●施設入所後、将来は一人暮らしがしたいとの希望に応えたい。</p>
当面の処遇方針	<p>●保護観察所作成の処遇実施計画書のとおり行う(定期的にケア会議、面接を行う。緊急時はクライシスプランにより対応)</p> <p>●規律ある生活、他の利用者と良い関係作りに努力する。</p> <p>●過去に犯した行為は決してしないことを確認する。</p> <p>●健康管理や栄養管理に努める。</p> <p>●施設内の作業活動を通して、集中力や協調性を養う。</p> <p>●就労、地域生活への意識を高める。</p>

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
精神的 不安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●被害妄想による行為であり自分で抑制することは難しい。 (心神喪失により不起訴)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再犯防止に向けて本人の意識作り</li> <li>●適正な医療的・心理的治療 (定期的なケア会議と面接を行う)</li> </ul>	法令遵守  医療的ケア
生活苦	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定した生活資金が無かった。</li> <li>●社会的な生活技能が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活保護の受給</li> <li>●施設入所支援 生活の場の確保と日中活動の場の確保</li> </ul>	所得保障  生活基盤
相談相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>●両親はすでに死亡し弟とも交流はなく疎遠である</li> <li>●信頼できる相談相手がいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●弟との信頼できる人間関係づくり</li> <li>●信頼できる人間関係づくり</li> </ul>	家族関係の修復  コミュニケーション
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職を転々としながら単身で生計を維持していたが引きこもり状態が続き、働けなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就労支援を行なう。</li> </ul>	就労
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成19年、医療観察法の鑑定入院で統合失調症と診断。ストレスによる妄想・幻聴がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康診断</li> <li>●ストレスに注意</li> <li>●病識を持つ</li> </ul>	医療的ケア

### ③ プランニング表 （個別支援計画表）

氏 名	Eさん	記録日	平成 20年〇〇月〇〇日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
法令遵守	再犯防止の意識を高める	遵守事項の設定 ① 体験入所時施設生活の説明と遵守事項を確認する ② 入所時施設長より遵守事項を確認する ③ 個別支援時を活用して必要に応じ遵守事項を確認する	入所前  入所時  随時	施設長  施設長  施設担当者
	適正な医療的・心理的治療	④ 定期的ケア会議、面接し、医療、援助の状況を把握する。	定期	保護観察所 福祉担当者 指定通院医療機関 施設担当者
生活基盤の確保	安心できる生活の場の確保	施設入所支援	入所前	保護観察所
生活技能	社会的生活技能を修得する	① 施設入所支援の手続き（精神保健福祉手帳取得）	入所前	福祉担当者
		② 生活保護申請	随時	施設担当者
		③ 安心できる生活の場、日中活動の場の提供	随時	施設担当者
		④ 施設生活を通して役割や責任を学ぶ	随時	施設担当者
		⑤ 金銭感覚を習得する	随時	施設担当者
		⑥ 交通機関や銀行等の社会資源を有効利用する	随時	施設担当者
		⑦ 余暇の過ごし方を学ぶ（趣味等）	随時	施設担当者

コミュニ ケーショ ン	信頼できる人間関 係の構築	安心できる場の確保 ① キーパーソンを設定 し、何でも相談できる 体制を確保する ② 家族との関係修復に 努める	随時  随時	施設担当者  施設担当者 福祉事務所
就労	就労意欲の喚起、 動機付け	就労意欲の向上 ① 施設内作業を通して 集中力、継続性、協調 性を養う ② 外勤作業を通して就 労を視野に必要な基本 態度や能力、方法、経 験を身につける ③ 本人に合った就労先 を開拓する	必要時から  必要時から  必要時から	施設担当者  施設担当者  施設担当者
地域生活 移行	地域生活移行	自立した生活 ① 入所時より地域生活 移行を想定し意識を高 める ② 居宅生活訓練等を通 して地域生活の体験を する ③ 必要に応じて具体的 な移行先などの調整を 行う ④ 移行後も相談できる 場所を確保する（バッ クアップ施設）	入所時から  必要時から  必要時から  必要時から	施設担当者  施設担当者  施設担当者  施設担当者
健康	健康づくり	健康・栄養管理 ① 健康管理を実施し状 態を把握する ② 病識を持つ ③ 早期発見、早期治療 ④ 必要な治療を行う	入所時から  随時 随時 随時	施設担当者  施設担当者 医師 医師



④ モニタリング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	E さん	記録日	平成21年 〇月〇〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
医療観察法による支援を受けながら、自立のための訓練を通して、本人が希望する社会復帰を目指す。		定期に開催するケア会議や、指定通院医療等を着実にしながら、施設での安定した生活や就労意欲を高める作業活動に積極的に取り組んでいる。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再犯防止の意識を高める</li> <li>●適正な医療的・心理的治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自ら犯罪行為について語ることはない</li> <li>●定期的なケア会議、通院、社会復帰調整官との面談を行っている</li> </ul>	必要に応じて遵守事項を確認する 今後も継続する
生活基盤の確保 生活技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心できる生活の場の確保</li> <li>●社会的生活技能を修得する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●精神保健福祉手帳取得、生活保護受給</li> <li>●施設生活にも慣れ、任された役割も責任をもって行っている</li> </ul>	終了 終了 公共交通機関を利用した外出、社会資源の利用に取り組む
コミュニケーション 家族環境整備	信頼できる人間関係の構築	保護観察所の社会復帰調整官や施設の担当者への相談は多くはない。 福祉事務所を通して調整しているが改善は見られない	定期のケア会議、面談時だけでなく日常生活のかかわりのなかで信頼関係を築く解決には時間が必要なためじっくり取り組む
就労	就労意欲の喚起、動機付け	作業能力も高く意欲的である。受け入れ事業主の評価も高い。	本人が希望する仕事の開拓、社会人としてのマナーなどの習得、確認を行う
地域生活移行	地域生活移行	〇〇市での一人暮らしを希望している	アパートでの生活訓練の準備をする
健康	健康づくり	自ら健康に注意している 通院時、主治医に現況について報告している	毎日の健康チェックを継続 指定通院医療機関への通院を継続する

△事例 ⑥

F さんの概要

女性・45才

矯正施設から、更生保護施設に入所し、地域自立を目指しています。

初回面接（個人別処遇資料）

NO

面接月日 21年 〇月〇〇日

面接者

氏 名 Fさん （45歳）

○住民票

入所前の住所 前更生保護施設△△寮所在地

転入先 当該更生保護施設所在地

異動の手続き（ 年 月 日 異動完了）

○健康保険

☒加入済（ 年 月 日）

☒国民健康保険（ 年間）

○年金加入状況

加入状況 ☒無 ☐有る （☐国民年金、☐厚生年金、☐共済年金）

☐納入状況（ ）

☐受給状況（ ）

○運転免許証更新

☒非該当

☐該当

☐手続き完了（ 年 月 日）

○連絡の取れる親族

☐無

☒有

①氏名 〇, 〇 続柄 姉 電話 〇〇〇-〇〇〇〇

住所 〇〇市

5年位連絡をとっていない、姉の夫と折り合いが悪く、  
訪ねても「帰れ」と追い返される。姉は幼児のころから可  
愛がってもらえ好印象

②氏名 続柄 電話

住所

☐保証人を頼めるか

家族との親和 ☐問題なし ☒疎遠

（内容） 親が亡くなるまでは実家で生活

H6年母死亡 H9父死亡

その後は姉夫に引き取られる

43歳 自転車を盗み執行猶予で釈放

姉の夫に返ってくると言われて△△寮に入る。

44歳 初入・釈放後△△寮に入る。

45歳 2入・満期釈放後△△寮に入る。

○傷病の治療

☐不要

☒要 知的障害の疑い濃厚

傷病名

傷病名

☐医療費の有無 ☐有り ☐無

☐生活保

○援護の実績

☐今後の福祉との折衝の必要性

- ・ 自立生活を営んだ経験なし、
- ・ 調理はできるが、経済観念が希薄で、生活上の不安抱えている。

○服薬状況

☒無

☐有

病名

病名

薬の名称

服用頻度

刑務所での服用状況

☐服薬継続 ☐要 ☐否

○飲酒癖

☐飲まない

☒飲む

☐依存症歴あり

☒暴飲する。 △△寮では毎晩のように居酒屋、スナック通いしていた。酔っても平常と変わらない。

依存傾向は自己否定、「飲まなくても大丈夫」

☐飲酒で問題を起こした ☐特別遵守事項記載

☐適量

○サラ金の整理 ☐不要

☒要

債務合計 900,000 円 元金合計 円

自分で借りたことはない、職場の仲間に騙されて  
借りさせられた。

○資格・免許 ☒無

☐有（ ）

### ○主な就労歴

自年月	至年月	社名	内容	給料他	
16歳～	35歳	〇〇産業	電車の車両組み立て	日給7,000円	倒産
35歳～	38歳	〇〇興産	ゴミ回収	7,000円	腰痛
38歳～	42歳	〇〇ロール	調理	H680、月10万	倒産
42歳～	43歳	〇〇警備保障	交通指導	日給7,000円	逮捕

\*すべてハローワーク求人、自力で就職した。

\*収入の半分は母親に渡していた。

### ○これからの就労計画

☒予定なし

☐予定あり（ ） 続柄（ ）

☐職種

☐今後の就労計画

清掃なら出来そう

### ○その他

### ○印象・生活歴など

能力的な制約もあり、自信に乏しく弱々しい。

苦手なことは、読み書き、計算、対人関係とを述べる。

記憶力は鮮明である。過去にコンサートに行った歌手の名前と回数をスラスラと列挙した。

プロ野球を球場まで人で見に行ったと言うことで、活動的な一面もある。スナックではカラオケで唄を熱唱するとのことである。

Jリーグ〇〇の試合には30回も足を運んでいるという。

コンサートもサッカー観戦も初受刑後は途絶えている。

一定の就労経験があるので、単純作業の適職であれば就労継続は可能と思われる。

## ○ここでの生活する上での問題点

- ① これまでは、生活費の大半を酒代に費消してきたという。相当な好酒家であることが窺われる。在所中の飲酒のみならず、継続的な断酒に向けた指導が必要である。
- ② 経済的な観念が弱いので、金銭管理は徹底する必要がある。
- ③ 対人関係が苦手であること、気が弱く理解力も低いので、他者から便利に利用されることなどが心配される。
- ④ 入浴は毎日行くと述べているので心配ないと思われる。

## ○退所予定及び退所先について

本人はアパートでの就労自立しか選択肢しかないものと思いこんでいるが、一人暮らしの経験もなく、アパート生活のイメージは全く出来ていない状態である。

当施設のようにいつでも相談に乗ってくれる人がいる環境での生活を提案したところその方が安心との感想を漏らした。

両親や姉からは可愛がられて育ったという。両親の死後は姉夫婦が面倒を見てくれていたが、最初の自転車窃盗の逮捕で姉の夫から「帰ってくるな」と縁を切られ、以来、姉とは没交渉とのこと。身内に頼ることは難しそうである。

## ○まとめ

まずは本人の生活状況を注意深く見守りながら社会適応能力を判断することが必要である。

次に、必要な支援が何かを判断していくことになる。

福祉の支援を直ちに受けるか否かを別にしても、将来的な保険という位置づけで療育手帳を取得しておくべきと思われる。

また、療育手帳の手続きを進めるのと同様進行で、受け皿確保に向けて動く必要がある。

一定の就労意欲は見られ、適職であれば継続も可能と思われるが、単独でのアパートでの一人暮らしは、能力的に困難と思われる。



支援プログラム（プラン）作成  
氏名：F さん

支援目標

- ①可能な就労  
②安心・安全  
③生きがいや

処 遇 計 画（案）		
地域生活に必要な基本的 ニーズの領域（該当○）	本人のニーズ／状況 留意事項／備考	具 留意
遵守事項 等	「二度と人の物は盗らない」	①セルフモニタリング支援
障害への認知の状況	・手帳取得には同意している ・福祉サービスを受けるための資格との認識	①手帳取得時には知的障害につ
求職・就労	・意欲 ・希望 ・能力 ・就労 ・その他 ・就労意欲旺盛で求職活動に積極的に取り組む ・能力的な制約はあるが就労歴が27年ある	①職業安定所を利用して一般就 ②協力雇用主の利用 ③〇〇〇就労支援センターの利用
生活基盤の確保	生計の確保 ・年金 ・生保 ・資産 ・仕送り ・その他 ・就労自立の意向	①求職活動を通して現実的な収 ②年金の納付状況の確認 ③障害年金（基礎年金（一時金 ④満期までの収入額確認。生活 ⑤就労状況に応じて退所後の生
	住居の確保 ・GH ・アパート ・その他の住居 ・「一人で生活するのは不安」 ・単独での生活歴はない	①障害福祉担当部署との連絡調 ②療育手帳取得（○/○判定） ③知的障害者GH受入れ調整 ④支援ネットワーク構築準備（
健康管理	・不調の感知と訴え ・服薬・病状管理 ・食事管理 ・アルコール・薬物 ・精神、身体状況 ・その他 ・「酒はもうやめたい」	①アルコールへの依存傾向の観 ②効果的な断酒指導の検討
日常生活状況	・掃除 ・整理整頓 ・整容 ・清潔 ・洗濯 ・買物 ・手続 ・貴重品 ・交通機関 ・食事作り ・その他	
社会生活スキル	・対人関係・金銭管理 ・相談スキル・緊急時対応 ・コミュニケーションスキル （意思表示・伝達・会話理解） ・ADL・その他 ・「会話に入れない」コミュニケーションが 苦手 ・金銭管理が苦手なことは自覚している	①居室及び同室者の配慮 ②金銭の預かり及び収支の管理
社会参加スキル	・趣味 ・社会活動 ・その他 ・「コンサートやスポーツ観戦をしたい」	①貯蓄が安定し生活に余裕が出る
その他	・家族関係 ・その他必要な福祉サービス ・その他 ・姉とは連絡がとれるが義兄の理解が得られない。	①本人の意思確認のうえ姉との確認

の継続をととして、自立と自信の確保を支援する  
な生活と生活環境の確保を支援する  
楽しみのある生活とふれあいの場の確保を支援する。

作成日（ 〇/〇 ）  
更新日（ 〇/〇〇 ）

	担当	期日	モニタリング 達成状況
体的計画			
事項／備考			計画の見直しの要否又は内容
いての説明が必要			
労			①職業安定所の紹介により〇/〇より就労開始決定
入の見通しを立てる			
）・厚生年金）受給要件の確認 費貸与金計画策定 活保護申請も視野に入れる			④〇/〇〇社会保険事務所で確認済
整		〇/〇	①〇/〇障害福祉課に状況説明 →カンファレンス出席に同意を得る
各機関に働きかけ）			
察			
てきたら余暇の過ごし方の計画を立て			
コンタクト試み。支援の意思・意向の			



△事例 ⑦

G さんの概要

男性・23才

矯正施設、障害者支援施設で就労移行支援事業を経て就職し、現在通勤寮から通勤しています。

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名	G さん	性 別	男・女
生年月日	昭和・平成62年 〇月〇〇日 (23才)		
本 籍	〇〇県〇〇市		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇市	
	住所地(住民票のあった所)	〇〇県〇〇市	
矯正施設名	〇〇〇医療少年院		
本件犯罪 (非行)内容	強制わいせつ、児童売春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律違反		
本件に至った 経緯・要因	家庭内のストレス(同居するいとこからのいじめや暴力)と本人の特性に起因する対人スキルの欠如と能力的制約における職場不適応		
帰住予定地	医療少年院 ⇒ 障害者支援施設 ⇒ なし		
刑期満了日	平成20年 〇〇月 日 (仮釈放 平成 年 月 日)		
家庭環境	<p>両親・家族等</p> <p>出生後すぐに両親は離婚。祖父母から養育を受ける。小学校2年時実母が死亡。</p> <p>姉は本人と交信拒否</p>		
身元引受人	<p>祖母・親戚等</p> <p>祖父は平成20年に死亡。祖母は目が不自由であり認知症が進んでいる状態。そのため祖母は叔母に引き取られている。叔母は本人の受け入れを拒否をしている。</p> <p>経済状況</p> <p>祖母は年金暮らし、叔父は飲食店経営</p> <p>満期終了時 施設職員 / 利用契約 叔母</p>		

生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴</p> <p>生後まもなく両親が離婚。主たる養育者は母方祖父母であった。小学校2年時に実母が死亡する。またその頃に万引きにて補導される。</p> <p>学校・施設・就職経歴</p> <p>自宅のあるA市立〇〇小学校、〇〇中学校の特殊学級を卒業。叔父の飲食店で皿洗いをを行うが2ヶ月で離職</p> <p>H15年に強制わいせつで逮捕される。〇〇医療少年院に送致。出院後叔母の飲食店で稼働する。</p> <p>H16年に自殺未遂。H17年に強制わいせつで再逮捕され再び〇〇医療少年院に送致される。H20年〇〇月満期退院し、障害者支援施設に入所となる。</p>
心身状況	<p>知能指数 IQ70代 田中ビネ<del>←・WA</del> SⅢ (言語性〇〇)(動作性〇〇)</p> <p>CAPAS ( 検査日 平成 20年〇〇月 〇日 )</p> <p>身長 〇〇〇cm 体重 〇〇 kg</p> <p>身体障害 無</p> <p>精神疾患 発達障害 (アスペルガー症)</p> <p>内部疾患 アレルギー性鼻炎、皮膚炎</p>
福祉サービスの利用状況	<p>服薬状況 無</p> <p>療育手帳 有(判定 B 判定日 判定機関 〇〇県 )・無</p> <p>身障手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・<del>無</del></p> <p>これまで受給していた福祉サービス</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み ( 10,000 円)</p> <p>障害基礎年金等年金の取得 有 ( )・<del>無</del></p> <p>生活保護 (刑務所所在地市町村にて取得) 〇月就労収入増加のため適用廃止</p>
本人の意思確認 (主 訴)	<p>〇〇医療少年院満期退院後障害者支援施設を利用する。地域移行として本人の出身地である〇〇県でいくつかの福祉施設を見学し就労と生活の支援を兼ね備えた当施設を希望する。</p>
施設を利用を必要とする理由	<p>●〇〇医療少年院満期退院するも「帰住先」が決まらなかったことや本人の安定した生活の確保と障害の特性に配慮した支援の必要性から〇〇福祉施設の園に入所となった。犯罪に対しての被害者感情の理解や対人スキルの学習、社会的マナー等の支援を受ける</p> <p>●地域で生活するための就労、生活及び社会的スキルの包括的な支援が必要な事と家庭における親密関係の乏しさからの未熟、硬直した認知のゆがみがみられるため基本的信頼関係の形成が必要と判断され、施設の利用となる</p>

<p>当面の処遇方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定した就労（就労先との密な連携と障害特性に配慮した支援の確立）</li> <li>●障害福祉サービスの受給、生活保護等の所得保障を整える</li> <li>●傷害施設からの約束事、禁止事項の確認と新たに通勤寮の約束事、禁止事項の設定</li> <li>●将来の目標を設定し、長期、短期目標を明確にする。</li> </ul> <p>&lt;基本的信頼関係の構築（多くの人に支えられている自分への気づき）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●言語、行動そして気持ちの乖離を丁寧にフィードバックする。</li> <li>●自治会などの役割を持つことと小さな達成感を積み重ねることで自己肯定感を育む。</li> <li>●現実の制約と自己の欲求との葛藤の処理、保持について言語化し、自分自身でコントロールできる方向につなげていく。</li> </ul>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
本人の認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の行為が犯罪であるとかわっているが、危機感がなくストレスであると言い、具体性に欠ける。</li> <li>●人の感情や気持ちに無頓着のため被害者感情の理解に欠ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼できる人間関係づくり（日常生活において言葉、行動、気持ちをフィードバックして自己理解を促す。）</li> <li>●再犯防止に向けて本人の意識作り。（ロールモデルとしてキーパーソン確保）</li> </ul>	<p>コミュニケーション</p> <p>法令遵守</p>
精神的 不安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知的能力の劣等感が強く人並みにできないことに対して過敏になる。</li> <li>●拒否や否定されることに対し興奮しやすく攻撃性が高まる。</li> <li>●現実原則の理不尽な場面に葛藤を抱えられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活の安定（居場所づくり）</li> <li>●信頼できる人間関係づくり</li> <li>●自己肯定感の育成</li> <li>●障害特性の自己理解</li> <li>●コミュニケーションスキルの習得</li> <li>●他者と共存するためのルールの設定</li> </ul>	<p>生活基盤の確保</p> <p>コミュニケーション</p> <p>生活技能</p> <p>生活技能</p> <p>法令遵守</p>
家族関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭における親密体験の乏しさを背景にいじめられるなどの幼時期を送る。</li> <li>●家庭で存在価値や居場所がなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼できる人間関係づくり</li> <li>●生活の安定（居場所づくり）（本人に寄り添うキーパーソン確保）</li> <li>●所得保障</li> </ul>	<p>コミュニケーション</p> <p>生活基盤の確保</p>
友人関係 職場関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障害の特性からコミュニケーションがとれず孤立する。</li> <li>●無条件に受容する友人としか対峙できず価値観の違いを受け入れられない。</li> <li>●能力の制限から仕事の内容が理解できず短期間で離職する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーションスキルの習得</li> <li>●自己肯定感の育成</li> <li>●自己受容</li> <li>●安定した就労（継続就労）</li> <li>●職場に対する障害特性の理解と配慮</li> </ul>	<p>コミュニケーション</p> <p>生活技能</p> <p>就労</p>
性的との 付き合い 視点	女性に興味はあるが、同世代の女性には声をかけられず、自分の指示に従う年下の女の子にいたずらをする。	女性とのつきあい方についての学習支援	生活技能

### ③ プランニング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	G さん		記録日	平成21年 ○月○○日	
領 域	支援目標	支援方法		頻度・時間	担当者
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遵守事項の設定</li> <li>●再犯防止</li> </ul>	①入所時に職員より遵守事項の確認を行う。 ②本人の希望も含め必要に応じて遵守事項の確認を行う。 ③キーパーソンの設定		入所時  随時	寮 長 次 長 援助係長
生活基盤の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼できる人間関係の構築</li> <li>●生活の安定</li> <li>●所得保障</li> </ul>	①キーパーソンの設定 ②安心できる生活の場の提供 ③相談体制の確立 ④生活保護の受給（就労後打ち切られる）		入所時から 随時 随時 入所時	次 長 援助係長 援助員
生活技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己肯定感の育みと自己受容</li> <li>●障害特性の自己理解</li> </ul>	①生活場面で役割を通じ承認体験を重ねることにより自己肯定感を育む ②余暇の過ごし方を学ぶ ③障害の特性の自己理解を深める ④地域生活に向けて準備を行う。 ⑤女性との付き合い方の学習支援を行う		必要時  随時	次 長 援助係長 援助員
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仲間意識をもつ</li> <li>●価値観の相違を受け入れる</li> <li>●人とのコミュニケーションの仕方を学ぶ</li> </ul>	①相談体制の確立 ②自治会を通して他者を知り、自分自身も知る。 ③障害特性の自己理解を深める。		随時	次 長 援助係長 援助員
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定した雇用</li> <li>●職場に対する障害特性の理解と配慮</li> </ul>	①生活の場との情報の共有 ②就労のキャリアアップの目標を持つ ③職場で人間関係調整		随時	次 長 援助係長 援助員

④ モニタリング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	G さん	記録日	平成21年 〇月〇〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定した人間関係</li> <li>●安定した生活</li> <li>●安定した就労</li> </ul>		安定した包括的で恒常的な環境の提供と基本的信頼関係の構築を主眼とし、キーパーソンを中心に自己肯定感を育みながら認知のゆがみに焦点をあてた支援を展開する。顕著な変化は見られないものの感情の表出と表情にやわらかさが出てきている。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遵守事項の設定</li> <li>●再犯防止</li> </ul>	安定した生活と人間関係の中において葛藤を抱えながらも遵守事項をきちんと引き受けていく姿勢はある。	遵守事項に関しては本人と相談し希望を取り入れながら主体性を尊重し尚かつ自己責任を確認しながら見直しをしていく。
生活基盤の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼できる人間関係の構築</li> <li>●生活の安定</li> <li>●所得保障</li> </ul>	恒常的な関わりの中で甘えや攻撃の発露が見られている。 感情を言葉に置き換えられるよう話し合いの支援を中心に行う。 就労後すぐに生活保護は適用廃止となる。	継 続 生活保護過支給額 46,300 円を2回分割払いで返金する。 H22年3月に自転車購入予定。(〇〇荘より8ヶ月間借用していたため)
生活技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己肯定感の育みと自己受容</li> <li>●障害特性の自己理解</li> </ul>	自治会活動や就労面で責任をもって役割を達成できている。また、そのことを本人に逐一伝える。	ていねいに根気強く継続していく
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仲間意識をもつ</li> <li>●価値観の相違を受け入れる</li> <li>●人とのコミュニケーションの仕方を学ぶ</li> </ul>	価値観の相違が心を傷つけるのではなく新しい発見につながることを逐一伝える。	ていねいに根気強く継続していく
就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定した雇用</li> <li>●職場に対する障害特性の理解と配慮</li> </ul>	就労面では、責任をもって遂行している。職場では、キーパーソンが設定されている。	継 続

## コメント

本人は、生育歴において疎外された環境と発達障害のために家庭や会社、世間と折り合いがつかず累犯を重ねてしまったケースです。

現在、本人が精神的に安定できる居場所の確保と基本的な信頼に基づくコミュニケーション関係を軸に支援を展開しています。生活の場や会社・世間とうまくおりあいがつかなくなったとき、さらには自分自身ともうまくかみあわなくなったとき 様々な不適応行動が出てきます。その不適応行動について丁寧に糸をほぐすように本人と一緒に考えていくというプロセスが本人自身が自分自身に気づいていくきっかけになるのだろうと考えます。そのためには、キーパーソンを中心に本人が納得できるように丁寧な支援がとても大切と感じています。

△事例 ⑧

<p>＝ H さんの概要</p> <p>男性・62才</p> <p>矯正施設から、一時的に更生保護施設を利用し、ケアホームでの生活を始めました。</p>
------------------------------------------------------------------------------

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名	H さん	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和 22 年 〇〇 月 〇〇 日 ( 62 才)		
本 籍	〇〇県〇〇市		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇市	
	住所地(住民票のあった所)	〇〇県〇〇市	
矯正施設名	〇〇刑務所		
本件犯罪 (非行)内容	<p>窃盗 H 6年 窃盗にて逮捕される(懲役1年執行猶予3年)</p> <p>H19年〇月 自転車盗にて逮捕される(懲役1年執行猶予3年)</p> <p>処分後県内の更生保護施設入所</p> <p>H19年〇月 執行猶予中に再び自転車盗にて逮捕</p> <p>更生保護施設から建設現場に行く途中、学校構内の駐輪場で鍵の掛かっている古い自転車を見つけ勝手に乗ったもの。</p> <p>懲役8か月(前刑執行猶予取消にて1年加算、合計1年8カ月)</p>		
本件に至った 経緯・要因	<p>昭和62年〇月までは転々としつつも企業に就労し、荷物運搬などの簡易作業をこなしてくる。両親が亡くなって以降は日雇い仕事中心に飯場暮らしをしたり、親方がアパートを借りてくれたりしていた。ホームレス状態だったこともある。</p> <p>平成6年の窃盗は詳しくは不明。19年の犯罪は2回とも自転車窃盗である。2回とも鍵の掛かっている古い自転車に勝手に乗っていたもの。1回目の時は現場に急ぐのに歩くのがしんどくて、2回目は買い物に行く途中である。2回とも自転車が古くて鍵がかかっていなかったのだから拝借したとの本人の言い分である。</p>		
帰住予定地	出身地の更生保護施設から断られる。近県でもよいとのことになる。		
刑期満了日	平成 21 年 〇 月 〇〇 日 ( 仮釈放 平成 年 月 日)		



<p>家庭環境</p>	<p>両親・家族等 両親はすでに亡くなっている。</p> <p>祖父母・親戚等 不 明</p> <p>経済状況 日雇い生活で所持金はほとんどなかった。</p>	<pre> graph TD     A[父] --- B[母]     A --- C[姉]     A --- D[兄]     A --- E[本人]     B --- C     B --- D     B --- E </pre>
<p>身元引受人</p>	<p>なし</p>	
<p>生育歴</p>	<p>幼児期からの主要な経歴 本籍地にて出生。兄弟の多くは亡くなり姉と兄が1名ずつ生存する。本人が6歳のころ一家で転居する。</p> <p>学校・施設・就職経歴 小中学を出た後、鮮魚屋に勤めながら定時制高校に通うが付いていけず1年で中退する。その後自衛隊で4年勤務する。自動車免許を取るが更新せず。除隊後は地元に戻り、雑誌社（運び作業）、織物会社を経て、土木作業をしている。</p>	
<p>心 身 状 況</p>	<p>知能指数 I Q 50代 田中ビネー・WISCⅢ（言語性 ）（動作性 ） CAPAS（ 検査日 平成 19年 〇〇月 日 ）</p> <p>身 長 〇〇〇cm 体 重 〇〇kg</p> <p>身体障害 ： 特になし</p> <p>精神疾患 ： 認知症が疑われるが診断はつかず</p> <p>内部疾患 ： 高血圧</p> <p>服薬状況 ： 降血圧剤</p>	
<p>福祉サービスの利用状況</p>	<p>療育手帳 <input checked="" type="checkbox"/> 判定 判定日 H.O. 〇〇 判定機関 更生相談所 ）・無</p> <p>身障手帳 有 判定 判定日 判定機関 ）・<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>これまで受給していた福祉サービス 更生保護施設利用時は生活保護医療保護のみ受給していた。</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み（矯正施設退所時は7千円。ケアホーム入居時は3千円程）</p> <p>障害基礎年金等年金の取得 有（ ）・<input checked="" type="checkbox"/>（申請中）</p> <p>生活保護 （刑務所所在地市町村にて取得）受給</p>	
<p>本人の意思確認 （主 訴）</p>	<p>故郷には今は帰れない。出身県に近いところで住みたい。生活が成り立てばよい。1人暮らしは不安である。働けるところがあれば働きたい。</p>	

施設利用を必要とする理由	矯正施設退所後の帰住地がなく、生活の拠点を設ける必要性があり一時期更生保護施設を利用した。薬の飲み忘れ、衣類の管理、家事処理能力面等で1人暮らしに不安あり、障害者自立支援給付障害認定区分において認定区分2となり、本人見学、面接の後、ケアホーム利用に至った。
当面の処遇方針	<p>障害者福祉サービスの利用に慣れ、安定した生活をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活への適応が図れるよう丁寧な声掛けを行う。</li> <li>・ 就労継続支援への導入と一般就労への適性をみる。</li> <li>・ 法令遵守をめざし、日々の生活の振り返りを行う。</li> <li>・ 健康維持のため食事や服薬への指導、支援を行う。</li> <li>・ 本人用自転車の購入。当面はレンタルで対応する。</li> </ul>

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
罪の認知 (窃盗)	○不安定な収入であった。 ○貯蓄する習慣が身に付いていなかった。 ○生活資金管理への支援が必要である。	○生活資金の確保  ○預金通帳を作成し計画的な生活資金の管理をめざす。	○生活基盤  ○生活管理
	○他者の物品に対する認知のズレがあった。	○認知の修正（古い物であっても、鍵が掛かっていなくても他者の物は盗ってははいけないことを認識する。）	○社会的認識
	○困ったときに相談できる人がいなかった。 ○困ったときに相談するということが身に付いていず、安易な判断をしてしまっていた。	○相談できる人を設定する。（キーパーソン） ○困ったときは人に相談し、自分で勝手に行動に移さないようになる。 ○横着な行動は慎めるようになる。	○社会的リハビリ コミュニケーション ○人間関係  ○行動変容
安定した生活	○安定した生活の場がない。	○本人に見合った生活の場を提供する。（ケアホームの確保）	○生活基盤
	○生活物品の不足	○生活に必要な物品を揃える。	
	○収入の確保	○障害基礎年金が受給できるようにする。 ○不足分は生活保護を受給する。	
健康	○血圧が高い。 ○入れ歯が合わない。 ○短期記憶が低下した。	○内科受診。服薬を確実にする。 ○歯科受診をし、修理する。 ○専門医の受診	○健康管理
家族関係	○両親が亡くなってから生活が崩れて来だした。 ○兄弟とは疎遠である。 ○力関係にこだわる。	○信頼できる人間関係づくり。  ○兄弟との復縁 ○対等な人間関係をつくる。 ○小集団の生活に慣れる。	○家族関係の復帰 ○家族関係の代償  ○対人関係

社会参加 したい	<p>○仕事がしたい。</p> <p>○余暇を楽しみたい。</p> <p>○地域の人と触れ合いたい。</p>	<p>○本人に合った仕事を見つける。</p> <p>○就労継続支援の検討。実習</p> <p>○趣味の読書ができるようになる。</p> <p>○グループで楽しめることを見つける。</p> <p>○地域の行事等へ積極的に参加する。</p>	<p>○就労</p> <p>○趣味・余暇活動</p> <p>○地域交流</p>
-------------	--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

③ プランニング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	H さん	記録日	平成〇〇年 〇月〇〇日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
法令遵守	他者の物品に対する認知の修正を図る。	①本人用自転車を購入し、防犯対応も含め、盗られれば困ることを学べるようにする。 ②共同生活のルールの説明	入居時早い内に	主任キーパー
	社会生活のルールを守る意識を高める	①社会生活でのルールの確認支援 ②日記付けを通じ、毎日の行動を振り返る。		ホームキーパー
	日頃から相談できる環境をつくる。	①キーパーソンの設定 ②定期的な個別の話し合いを持つ。	週2回	主任キーパー
生活基盤	生活資金の確保	①就労収入への意欲を保つ。 ②生活保護申請 すでに医療扶助は受給してい、生活扶助、住宅扶助の支給申請をする。 ③障害基礎年金申請・管理 年金申請し、受給後は生活保護と年金で生活していけるようにする。 ④預貯金へのアドバイス 臨時的出費に備えるよう日頃から少しずつ預金する習慣を身につけるよう支援する。	入居時  入居前より準備する。以後継続して行う。  適時行う。	生活支援員 定着支援員 生活支援員  生活支援員 主任キーパー
住まいの確保	集団生活に慣れる	集団生活のルールの説明をする。	入居時	生活支援員 主任キーパー
	生活に必要な物品の確保	僅かな衣類くらいしかなく、ベット、タンス、机など生活用品を用意する。		全員で協力する

健康管理	心身の健康を保つ	①医療機関の受診支援 ②服薬を確実にする。 ③認知症外来受診支援	入居時より継続して行う	ヘルプサービス ホームキーパー
対人関係	良好な人間関係を保つ	①支援者との信頼関係の樹立が図れるように支援する。 ②同居者達と仲良くできるよう見守る。 ③社会人としてのルールが守れるように支援する。 ④得意なことを伸ばし自尊心を高められるように支援する。 ⑤親族との復縁につき機会を見て介入支援する。	入居時より継続して行う    機会を見て行う	各支援者  ホームキーパー  生活支援員
社会参加	本人に合った仕事（作業）につく。  余暇を有意義に過ごせるようになる。  地域交流の促進を図る。	就労継続B型事業所での実習を試してみる。  図書館の利用につき支援する。  ①カラオケなど楽しむ機会を設ける。 ②買い物支援 ③地域住民との交流への支援をする。（挨拶、行事参加など） ④ふれあいサロンへ参加する。	1ヶ月間程  自力でできるまで。  適時 適時 継続して行う  継続して行う	活動センタースタッフ  生活支援員  主任キーパー ホームキーパー  市社協スタッフ
コミュニケーション	気軽に相談できるようになる。	①相談相手の明確化を図る。 ②定期的な個別の話し合いを持つ。	入居時  週1回以上	生活支援員  生活支援員

④ モニタリング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	H さん	記録日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
本人の持てる能力を生かしつつ、規則正しい安定した生活を営み、地域生活に定着する。		福祉の支援を受けながらの地域生活にも慣れ、地域の行事や、就労継続事業所の旅行など大変喜んで参加している。しかし最近認知面の低下が見られるようになり、今後の支援の再検討が必要となりつつある。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
法令遵守	他者の物品に対する認知の修正を図る。	①自転車への思いは強く、大切に扱っている。もう二度と他人の物には乗りませんと話している。 ②しかし一方で、認知面の衰えがあり、同居者の衣類を間違えて着ていることがある。	法令順守への意識付けは継続して取り組むが、一方で認知症への対応や支援の必要性が増してきている。
	社会生活のルールを守る意識を高める	約束を守ろうとする意欲はあるが、忘れてしまうことも多くなっている。	計画は継続する。
	日頃から相談できる環境をつくる。	聞くと大丈夫ですと答えることが多く、自ら相談することは少ない。	
生活基盤 所得保障	生活資金の確保	①障害年金と生活保護、就労継続による工賃収入で生活資金は確保されている。 ②預貯金は生活支援員の管理の下少しずつ増やしている。	就労収入は作業状況からこれ以上は望めず。現状維持とする。
住まいの確保	集団生活に慣れる  生活に必要な物品の確保	①ケアホームの生活はすっかり慣れてきた。 ②生活用品も揃い、安定してきている。	計画は一応終了したが、今後も安定した生活空間を作っていく予定である。

健康管理	心身の健康を保つ	①高血圧の受診、服薬は支援の元継続中である。 ②歯科受診治療終了した。 ③認知症疑いに付き受診予定をしている。	継続  受診結果等により対応、支援を再検討する。
対人関係	良好な人間関係を保つ	①当初からのメンバーとは馴染め ているが、新しいメンバーとの間でトラブルがある。 ②支援者とは良い関係を 保ててい る。	様子を見つつ、メンバー変更も検討する。
社会参加	本人に合った仕事（作業）につく。	作業能力は当初見込んだより低く、やれることが限られるが、休まずに通っている。	様子を見つつ継続する。 今後作業が苦痛になるようであれば検討する。 本人の希望で継続する。
	余暇を有意義に過ごせるようになる。	図書館やカラオケはよく利用している。	
	地域交流の促進を図る。	①川掃除や夏祭り等積極的に参加している。 ②ふれあいサロンも楽しんで参加している。	現状維持、継続
コミュニケーション	気軽に相談できるようになる。	支援者や仲間とも良く話しはす るが、自己判断をして失敗する ことは今でも良くある。	日頃からの声掛け、定期的話し合いを継続する。



# △事例 ⑨

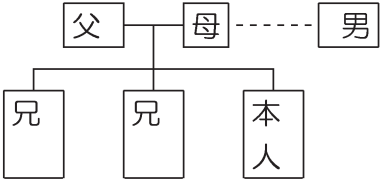
## Ⅰ さんの概要

男性・22才

矯正施設を退所後、障害者相談支援事業所で通所作業所に繋いだが、現在は障害者支援施設を利用し、ケアホームへの入居をめざしています。

## ① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名	Ⅰ さん	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成 62年〇月〇日 （ 22 才）		
本 籍	〇〇県〇〇市		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇市	
	住所地（住民票のあった所）	同上	
矯正施設名	指定医療機関 〇〇病院		
本件犯罪 (非行)内容	<p>（強盗未遂・鉄砲刀剣類所持等取締法違反）</p> <p>コンビニエンスストアにおいて、店員に対し、カッターナイフを突きつけて脅迫し、反抗を抑圧して現金を強取しようとしたが、その目的を遂げなかった。</p> <p>（具体的な内容）</p> <p>平成20年〇月×日「もっとお金を持ち、女遊びをしたい」と思い、強盗することを思いついた。従業員に対して「金を出せ」と言いカッターナイフを突きつけ脅迫した、本人は店の出入り口を何度も向き、キョロキョロしていたため、その際に被害者が同店事務所に逃げ込んだため、その目的を遂げなかった。その後、自宅に戻るが数日後に被害者が対象者を発見し、警察に通報し、同日逮捕された。</p>		
本件に至った 経緯・要因	20歳頃から独り言や空笑が激しくなり、両手を繰り返し握るなどの行為も激しくなった。平成20年〇月〇×日「もっとお金を持ち、女遊びをしたい」と思い、強盗することを思いついた。		
帰住予定地	障害者支援施設		
刑期満了日	平成20年〇月〇日、懲役3年執行猶予付保護観察5年の判決		

<p>家庭環境</p> <p>身元引受人</p>	<p>両親・家族等</p> <p>父は死亡。母と兄2名</p> <p>母の内縁の夫</p> <p>経済状況</p> <p>母</p>	
<p>生育歴</p>	<p>幼児期からの主要な経歴</p> <p>出産後、発達の遅れを指摘されたことはなかった。</p> <p>幼稚園で問題を指摘される事はなかったが母親はあまり自発性がないという印象を持っていた。8歳の頃、父が他界。</p> <p>学校・施設・就職経験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では成績が悪く、友人は少なかった。自宅でテレビを観たりベッドで横になったりする事が多かった。特殊学級に入る事を勧められる事はなかった。</li> <li>・中学校でも同様であったが3年間サッカー部に所属していた。高校に入学するまで祖父母が着替えをさせ、学校まで送り迎えした。</li> <li>・中学2年の頃、母、内縁の夫、2人の兄と一緒に生活するようになった。</li> <li>・高校は定時制高校に入学。時々無断外泊。高校での成績はかなり悪かったが留年せず卒業した。</li> <li>・卒業後、母の内縁の夫の紹介でコンビニエンスストアにてアルバイト。2日間真面目に仕事をしたが、遅刻が重なったため1週間で辞めさせられた。その後、スーパーで働き始めるも、手先が不器用でうまく仕事ができず2週間の研修期間中に解雇。</li> <li>・その後、ハローワークで就職の相談をしたが、資格を持っていないのにもかかわらず、資格が必要な職種の求人票を窓口に持ってくるなどしていたため、ハローワークの職員が対象者の発言を奇異に思って、職員が家族に県知的障害者更生相談所に相談する事を勧めた。(療育手帳B2) 障害者職業センターで8週間の職業訓練終了後、通所作業所に通う。</li> </ul>	

心身状況	<p>知能指数 I Q 60代 <u>田中ビネー</u>・WISCⅢ (言語性 ) (動作性 ) )</p> <p>CAPAS ( 検査日 平成 年 月 日 )</p> <p>身長 〇〇〇cm 体重 〇〇kg</p> <p>身体障害</p> <p>精神疾患</p> <p>鑑定入院時の診断は、軽度知的障害、統合失調感情障害、躁病型であり、治療を目的に指定医療機関に入院。入院時より、一過性に性的、誇大的な発言を認めたものの、持続する気分の高揚や爽快さ、不機嫌さはなく、多弁・多動・行為心迫も目立たない。</p> <p>集中力を欠くものの注意の転導性亢進も認めていない。同様に持続した幻覚、妄想、まとまりのない会話、緊張病性の行動、陰性症状も認めていない。という事から今まで観察されていた統合失調感情障害の症状であると考えられていた症状は、精神遅滞による被影響性、被刺激性の高さから環境に反応したものである可能性が高いと考えて軽度精神遅滞のみの診断となった。</p> <p>障害者支援施設入所後、指定入院医療機関での投薬を継続。嘱託医より統合失調症の診断を受ける。</p> <p>入所後、本人が安定をしている事。本人より朝は眠いと訴えがある事から安定剤は中止となる。</p> <p>内部疾患</p> <p>服薬状況</p> <p>安定剤・睡眠導入剤</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 <u>有</u> 判定B 判定日19年〇月〇日</p> <p>判定機関 県知的障害者更生相談所 )・無</p> <p>身障手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・無</p> <p>これまで受給していた福祉サービス</p> <p>障害者職業センターで8週間の職業訓練</p> <p>訓練終了後、通所作業所利用(3カ月)</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み (5000円・ 円)</p> <p>障害基礎年金等年金の取得 <u>有</u> ( 2級 )・無</p>
本人の意思確認 (主 訴)	作業所に行きたい。
施設利用を必要とする理由	家庭での受け入れが困難なため生活する場所がない。
当面の処遇方針	本人・家族・保護司・障害者支援施設にて連携を取りながら支援を行う。

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
就労	仕事については長続きして働く事ができなかった。	本人に合った日中活動を提供する。	社会的リハビリ
精神的安定	事件前までは精神的に不安定であった。	落ち着いて安定した生活が送ることができるように支援する。	健康管理
罪の認知	強盗未遂・鉄砲刀剣類所持等取締法違反事件を起こした。	再び罪を犯す事がないように支援していく。	法令遵守

### ③ プランニング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	Ⅰ さん	記録日	平成20年〇月〇日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
社会的リハビリ	本人に合った日中活動を提供する。	本人に合った作業を提供し、本人のペースで取り組む。声掛けで励ましたり、給料の支給やその説明をしたりし、労働意欲を高め、本人のやる気を引き出しながら継続して作業に打ち込めるよう支援する。	週5回	施設職員
健康管理	落ち着いて安定した生活を送ることができるように支援する。	施設での生活ルールを守り、日中は仕事に打ち込み、夜はきちんと就寝するという生活を送ることができるよう見守る。	毎日	施設職員
		きちんと服薬ができるように確認し、医師・看護師と連携する。	毎日	施設職員 看護師
法令遵守	再び罪を犯す事がないように支援していく。	本人の表情や何気ない仕草など心の訴えのサインを見逃さずコミュニケーションを図り、心の隙間を埋めていく。話をするなかで不適切なことを考えていれば、間違ったことを正し、適切な方向を導く。	毎日	施設職員
		保護司との面会日の調整や情報提供を行う。	随時	施設職員 保護司

④ モニタリング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	I さん	記録日	平成20年〇月〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
規則正しい生活を送ることができるように、日中活動を提供し、落ち着いた生活環境を提供する。この事で、精神的安定を図り、再び罪を犯す事がないように支援する。		日中は作業に参加し、夜間は 24 時間体制の見守りの中で十分な睡眠がとれており、服薬も医師・看護師と連携し適切に行われている。また、罪を犯す事がないよう本人の様子をよく観察し早期に対応ができています。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
社会的リハビリテーション	本人に合った日中活動を提供する。	本人に合った作業の提供や作業参加を促すことについてはほぼ達成している。しかし、作業に遅刻する事や、技術的な面で課題が残っている。 本人との面会の中で、本人は「今は楽しく頑張っている」と話している。	支援計画に沿って、継続した支援を行う。
健康管理	落ち着いて安定した生活を送れるように支援する。	施設では特にトラブルもなく、落ち着いて過ごす事ができている。また、入浴後、眠前薬を服用し10時には就寝。7時に起床という、落ち着いた生活を送る事ができている。服薬についても看護師・医師と定期的に情報共有している。	支援計画に沿って、継続した支援を行う。
法令遵守	再び罪を犯す事がないように支援していく。	本人に対してきめ細かい様子観察や積極的なコミュニケーションが行われ、気になることがあればすぐに対応されている。また、本人に情緒の乱れはなく反社会的な考えが表れていなかった。 保護司とは 1 度面会し情報提供されている。	支援計画に沿って、継続した支援を行う。

## コメント

本ケースに関しては、鑑定入院中に援護の実施者から相談支援事業所に相談があり、退院後につなげる支援会議等を事前に実施できました。

また、入院中には帰住先となる支援施設の職員（キーパーソン）が面会等にも赴いたことにより、実際の支援前から関係性を作ることができた事は、退院後の支援においても、本人や家族の方にとって大変有効なものになりました。

現在は、障害者支援施設において『生活訓練事業』を利用しており、2年間の訓練期間終了後は、同法人が運営するケアホームに入居し、日中は通所事業所（生活介護もしくは就労継続）を利用することが想定されますが、支援施設同様ケアホームにおいても夜間の見守り、医療面や心理面でのアプローチは欠かすことができません。

「悪いことをした」という、本件についての犯罪認知は出来ていますが、その他環境や刺激により他の犯罪を引き起こす可能性が全くないわけではなく環境設定が今後は大変重要になってきます。

本件に至る過程において、一度は障害福祉サービス（通所作業所）を利用しましたが、数カ月で自らの意思において通所を辞め、その後は障害福祉サービスを受けていなかったという事実があります。仮にサービスを継続していたとしても、本件を防げなかったかもしれませんが、逆に防ぐことができた可能性もあります。

そういう意味では、通所事業所を辞めた後も何らかの支援体制を継続していくことが、犯罪防止のための大きな課題だったといえます。

△事例 ⑩

Ｊ さんの概要

男性・４１才

矯正施設を退所後、障害者支援施設の短期利用を経てグループホームでの生活を始め、就職を目指しています。

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな)			
氏 名	Ｊ さん	性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成４３年 〇月〇〇日 （４１才）		
本 籍	〇〇県〇〇市〇〇〇〇		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇市	
	住所地(住民票のあった所)	〇〇県〇〇市	
矯正施設名	〇〇刑務所 (〇〇県〇〇市)		
本件犯罪 (非行内容)	家宅侵入にて２度起訴され、執行猶予中に傷害罪で起訴され 懲役１年		
本件に至った経緯・要因	家族とは離縁し、野宿生活となる日雇いの仕事で、その日暮らしをしており、いつものたまり場になっていたショッピングセンター街のベンチで寝ているところを、店員に注意を受け、噛み付いてしまい本事件となる。		
帰住予定地	未定		
刑期満了日	平成２１年〇月 〇日 （仮釈放 平成 年 月 日）		
家庭環境	<p>両親・家族等</p> <p>２度の目の家宅侵入の事件から、父親が本人の勘当を宣告し、本人の家裁道具を燃やしてしまい、父親や兄弟との関係は途絶える。母親も義母で心配はしているが、関わりはない状況。</p> <p>祖父母・親戚等</p> <p>親戚等の関わりはない</p> <p>経済状況</p> <p>父母は年金暮らし。長男は自己破産している</p>		
身元引受人	仮釈放時 施設職員 / 利用契約 検討中		



生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴</p> <p>〇〇小学校卒業後、〇〇養護学校中学部入学と同時に、児童入所施設〇〇措置となる。</p> <p>中学部卒業と同時に株式会社〇〇就職し社員寮に入居となる。18年務めた後、社員とのトラブルで退社。その後、職を転々とする。</p> <p>その間に、2度の家宅侵入で逮捕され、家族とも離縁になり、住む場所を失い野宿生活となる。日雇いの仕事で何とか生計を維持するものの、苦しい生活状況が続き、ショッピングセンターで起きた店員とのトラブルにより服役する事となる。</p>
心身状況	<p>知能指数 I Q 50代 田中ビネー・WISCⅢ (言語性 ) (動作性 ) CAPAS ( 検査日 平成 年 月 日 )</p> <p>身長 〇〇〇cm 体重 〇〇kg</p> <p>身体障害 なし</p> <p>精神失陥 なし</p> <p>内部疾患 なし</p> <p>服薬状況 なし</p>
福祉サービスの利用状況	<p>療育手帳 ⑤(判定 B 判定日昭和55年〇月×日 判定機関 〇〇福祉センター )・無</p> <p>身障手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・㊦</p> <p>これまで受給していた福祉サービス 児童期の措置による児童施設入所のみ</p> <p>所得保障 現在の所持金・見込み (約 15,000 円) 障害基礎年金等年金の取得 有 ( )・㊦ 生活保護 (刑務所所在地市町村にて取得)</p>
本人の意思確認 (主 訴)	家庭には戻れないので、住む場所と仕事を探したい。
施設を利用を必要とする理由	家族とは離縁状況からも家庭に戻る事は困難な為、福祉サービスを利用しながら生活の立て直しをする必要がある。
当面の処遇方針	相談支援事業所を中心に、短期入所事業所、就業・生活支援センター等で連携をとりながら、居住地の確保を最優先させ、併せて、国民健康保険の手続きや、障害者基礎年金などの各種手続きを行ないながら、就労支援を行なっていく方向で、関係機関と連携をとりながら進めることとなる。

## ② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域
罪の認知	<p>○困った時に相談できる人がいなかった</p> <p>○生活する場所がなかった</p>	<p>○ラポートの形成とキーパーソンを作る</p> <p>○本人が希望する暮らしと一緒に考える</p>	<p>社会的リハビリ</p> <p>生活基盤</p>
就 労	○仕事が日雇いで安定しなかった	○就労支援策を利用しながら、働きやすい職場環境を構築する	所得保障
安定した生活	○収入の確保	○障害基礎年金の申請を行なう	生活基盤
対人関係	<p>○ストレスの発散がうまくできなかった</p> <p>○友人の仲間になるために、言われた事が断われなかった。</p>	○コミュニケーションスキルの習得と信頼できる人間関係の構築	対人関係

### ③ プランニング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	J さん	記録日	平成21年〇月〇〇日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者
法令順守	<p>社会のルールの確認</p> <p>相談できる人を作る。</p>	<p>①困った場合の対応の仕方と確認をする事を意識していく。</p> <p>②相談できる人を作っていく。</p>	<p>週1回</p> <p>随時</p>	<p>生活支援ワーカー</p> <p>施設職員 相談支援専門員</p>
就 労	働き方を一緒に考える	<p>①体験実習を通して自分にあった職業を探す。</p> <p>②働く場面での相談できる人を作る</p> <p>③会社でのマナーや対人関係について実際の場面で習得する</p> <p>④就労が決まるまでの間、スムーズに就労できる様に体力維持に努める</p>	<p>随時</p> <p>随時</p> <p>随時</p> <p>随時</p>	<p>就労支援ワーカー ハローワーク 職業センター 施設職員 実習先担当者</p>
生活基盤	<p>住む場所を一緒に探す。</p> <p>これからの暮らしを一緒に考える。</p>	<p>①グループホームの見学、体験を行なう。</p> <p>②不動産をまわり、アパートを見てまわる。</p> <p>③障がい者基礎年金の申請</p> <p>④国民健康保険の手続き</p> <p>⑤これからの暮らしについて一緒に考える</p>	随時	生活支援ワーカー 相談支援専門員

④ モニタリング表 ( 個別支援計画表 )

氏 名	J さん	記録日	平成21年〇〇月〇日
総合的支援目標		総合的達成状況	
本人らしい暮らしの再出発		関係機関が連携をとりながら、支援を進めることによって、生活場所が年明けから短期入所からグループホームに移行となる。仕事も実習や短期の仕事をつなぎながら、年明けに採用予定の企業の実習に入る事となる。	

領 域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容
法令順守	社会のルールの確認  相談できる人を作る。	生活支援ワーカーや相談支援専門員、施設担当職員との関係性が良好であり、信頼関係は構築できてきている	継続
就 労	働き方を一緒に考える	働きたいという意思は強く、実習先それぞれの評価は高い。また、仕事が見つかるまでの間の所得は、短期入所事業所の清掃業務を契約し、生活維持につなげた。	継続  年明けより本格的な企業実習に入り、ジョブコーチ制度を活用し就労の予定で進める。
生活基盤	住む場所を一緒に探す。  これからの暮らしを一緒に考える	家族と離縁状態の本人のとしては、短期入所事業利用の為、生活保護が使えず、早い段階での地域生活をスタートとできる様に、グループホームの見学、体験。最終的なアパート暮らしに必要な準備金等の確認を行なっており、年明けにはグループホームの生活をスタートさせる予定。 相談支援専門員と行政手続きを行なう。	継続  グループホームの生活がスタートした時点で、ケア会議を開催し、次のステップに向けた支援計画を作成する。



## V. 地域支援プログラムのモデル事業実績報告書

1. 社会福祉法人 飛山の里福祉会
2. 社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団
3. 独立行政法人 国立のぞみの園



## 1. 社会福祉法人 飛山の里福祉会





# 事業計画

## <事業名>

「福祉の支援を必要とする矯正施設等を退所した知的障害者の地域生活移行のための効果的な支援プログラムの開発に関する研究」事業

## <目的>

福祉の支援を必要とする矯正施設等を退所した知的障害者の再犯を防止し、地域生活に定着するために、どのような機能を持った支援体制を整備することが効果的であるかモデル的に実践し、また、その体制の在り方と必要な機能について支援プログラムの開発の研究を行い、当該研究を情報発信し、障害者の地域生活への移行の推進を図る。

## <事業内容>

### 1 合同支援会議の開催

矯正施設から退所し、又は福祉施設等を経由した知的障害者が地域生活に移行するために支援スタッフを編成し、具体的に支援プログラムを作成し実践にあたる。

### 2 生活支援・見守り支援のモデル実施

地域生活の中で定着できるよう見守り支援をする一方、再犯に至った場合についても緊急対応の支援を行う。

### 3 支援スタッフの研修

矯正施設から退所した知的障害者が、地域生活に移行し地域生活に定着するため、より適切な支援が行えるよう、支援スタッフの研修を行う。

# 事業報告

## 1 はじめに

栃木県は6つの保健福祉圏域に分かれており、(社福)飛山の里福祉会「サポートセンターきりん」は県東圏域と宇都宮圏域の各市町から、相談支援事業を受託しています。

また、栃木県からは障害者相談支援アドバイザー事業を受託し、県東圏域の相談支援体制づくりのバックアップを行ってきました。

今回は、県東圏域での取組みをご報告いたします。

## 2 県東圏域の特徴

県東圏域は1市4町(当時1市5町)で構成されており、人口約15万2千人、面積は約560km<sup>2</sup>、の地域です。障害福祉施策については、圏域の市町と県東健康福祉センター(県福祉事務所・保健所)とが共に課題を検討し、対応してきました。「自立支援協議会」も平成20年7月に、1市4町が広域で設置しました。

障害者相談支援事業については、平成15年度から圏域の各市町が共同で「芳賀地区障害児者相談支援センター」を設置し、事業を委託された3つの社会福祉法人から専任の相談支援専門員が1名ずつ配置され、3名体制で相談支援活動を行っています。

県東圏域において、この「芳賀地区障害児者相談支援センター」がお一人おひとりへの支援を通して、保健・福祉・医療・教育の連携の推進役を務めています。

保健所の精神保健担当主催の「受理会議」(毎月開催)にも参加しており、精神保健福祉法第26条の通知がされた方で、知的障害が疑われる方について、地域に帰ってきからの支援に関わる機会が増えてきました。

[平成20年度の取組み]

県東圏域において4回開催された「地域生活支援セミナー(4回開催)」の第2回目(10月31日)に、「地域生活が困難な方への支援について」をテーマに、知的障害者更生施設「かりいほ」の石川施設長を講師にお招きし、実践報告と地域生活定着支援センターの動向について講演していただきました。矯正施設からの参加者もあり、質疑応答の時間に意見交換もされました。

11月13日には、「芳賀地区障害者相談支援専門員等連絡会」(毎月開催)のメンバーで、喜連川社会復帰促進センターを見学し、施設参観の後に、分類教育担当の方々と意見交換を行いました。

## 3 実践報告

### (1) 支援経過

#### ①事例1(Aさん)

※のぞみの園研究事業の個別支援計画様式を使用。

# ① アセスメント表（支援開始時）

ふりがな) 氏 名	Aさん	性 別	男・女
生年月日	昭和・平成 52年 0月 (32才)		
本 籍	〇県〇〇市		
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県	
	住所地(住民票のあった所)	〇〇県〇〇市	
矯正施設名	〇刑務所		
本件犯罪 (非行内容)	H21年 〇月 痴漢行為で3ヶ月服役する。		
本件に至った 経緯・要因	H21年〇月頃から生計困難者のために支援事業を行っているNPO法人の施設(〇県)で生活していたが、〇月にその職員と口論をし、出てしまう。お金もなく住むところもなく精神的な不安定さから、自暴自棄になり駅構内で女性に痴漢行為を行なう。		
帰住予定地	〇県〇〇市(刑務所退所時)		
刑期満了日	平成 21年 〇月 〇〇日 (仮釈放 平成 年 月 日)		
家庭環境	<p>両親・家族等</p> <p>父親：アルコール依存症で暴力等の問題を繰り返す。交通事故で左側頭葉損傷し、感覚性失語・人格変化あり。現在、措置入院中。</p> <p>実母：生後7ヶ月の時に家を出て、離婚、その後接点なし。</p> <p>継母、弟：父のDVにより別居</p> <p>祖父母・親戚等</p> <p>祖父母：他界。祖母は、母代わりに養育。</p> <p>叔父・叔母：〇〇県内に嫁いているが、交流はない。</p>		
身元引受人	<p>経済状況</p> <p>父親が家や財産を失い、平成〇〇年から生活保護を受けている。</p>		
生育歴	<p>幼児期からの主要な経歴</p> <p>生後5ヶ月のときに母親が家を出る。幼児期から父親に暴力を受ける。父方祖母に育てられる。7歳のときに父親再婚。8歳のときに弟誕生するが、継母・弟が家を出る。中学2年生のときに万引きで補導される。</p> <p>学校・施設・就職経験</p> <p>小・中学校とも普通学級に通う。小学校のときに担任から特殊学級を勧められるが、祖母の反対で普通学級で学んだ、との話が隣人からある。中学卒業後、理容専門学校に進学するが退学。その後、〇〇県のカソリンスタンドに就職するが、すぐに退職し、パチンコ店を転々とする。18歳のときに実家に戻り、父親の勧めで工場に勤務。20歳で、風俗店やパチンコ店を転々とする。借金や窃盗未遂で逮捕。22歳の頃、更生施設で生活。窃盗で2年間服役。この頃、覚醒剤や大麻を使用。更生保護施設で生活。この頃から幻聴が出現。30歳頃、〇県の暴力団事務所住み込みや右翼団体に活動。更生保護施設入所。平成〇〇年〇月から〇県の病院精神科受診。統合失調症の診断で治療を受ける。〇月、痴漢行為で服役。服役中、幻聴・幻覚あり抗精神病薬を服薬。</p>		

心身状況	知能指数 IQ 不明 ○○ 田中ビネー・WISCⅢ (言語性 ) (動作性 ) CAPAS ( 検査日 平成 年 月 日 ) 身長 ○○○cm 体重 ○○kg 身体障害 なし 精神疾患 H21年に精神科を受診し、統合失調症の診断を受ける 内部疾患 不明 服薬状況 不明
福祉サービスの利用状況	療育手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・無 身障手帳 有(判定 判定日 判定機関 )・無  これまで受給していた福祉サービス  所得保障 現在の所持金・見込み ( 〇 円) 障害基礎年金等年金の取得 有 ( )・無 生活保護
本人の意思確認 (主 訴)	・実家で落ち着いて生活したい。 ・昔のようになってしまうかと思うと不安になってしまうので、安心したい。
施設を利用を必要とする理由	
当面の処遇方針	実家で落ち着いて生活するために、気持ちの安定と経済的な安定を図る。 ・実家の住所への転入手続きをする ・生活保護の申請 ・精神科を受診し適切な治療を受ける ・福祉サービスの利用手続き ・近隣の住民へ受け入れの理解を得る

## ② アセスメントからのチェックシート

主 訴	ニーズ・要 因	支援の目標	領 域
認 知	○自分の行なった行為が犯罪であることを知りつつも、精神的な不安定さもあり、自暴自棄になり犯行を行なう。	再犯防止に向けて本人の意識作り	法令遵守
生 活	○安心して生活する居場所・生活資金がなかった。  ○社会的な生活技能が低かった。	○安心できる生活の場の確保 ○生活保護の申請 ○障害手帳の取得  ○計画性のある支出	○生活基盤  ○所得保障  ○金銭管理
精神的不安定	○困ったときに相談する信頼できる人がいないため不安定になる。 自己肯定感が低い。  ○機能不全家族の中で生育したため愛着形成が不十分だった。	キーパーソンの確保	コミュニケーション
就 労	仕事が続かなかった	適正な職業を見極める	就労
健 康	幻覚幻聴があり、精神的に不安定である。	○精神科受診をし、必要な治療を受ける  ○健康診断  ○発達障害の確認	医療的ケア

### ③ プランニング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名	Aさん		記録日	平成 ○○ 年○○月○○日	
領 域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者	
法令遵守	1. 再犯予防の意識を高める	・関係機関が連携し、遵守事項を設定し、面接や訪問時に必要に応じて遵守事項の確認を行なう	随時	関係機関担当者	
生活基盤の確保	2. 安心できる生活の場の確保	・住民票を移動し、生活の場を安定させる ・生活保護の申請 ・療育手帳、精神保健手帳の取得	早急に  早急に 随時	福祉課担当者  福祉課担当者 保健師 相談支援専門員	
生活技能	3. 計画性のある支出	・小遣い帳のつけ方を学び、計画的なお金の使い方をも身につける	随時	関係機関担当者	
	4. 趣味・特技の開発	・余暇の過ごし方を学ぶ	随時	関係機関担当者	
コミュニケーション	5. 信頼できる人間関係の構築	・キーパーソンを設定し、何でも相談できる体制を確保する （本人のとまどいが生じないように窓口を一本化する） ・本人との話し合い	早急に  随時	関係機関担当者  関係機関担当者	
就労	6. 就労による生きがいづくり	・本人の状態を確認しながら適性な判断を行なう	随時	職業センター担当者	
健康	7. 健康づくり	・精神科を受診し服薬調整を行いながら、安定を図る	必要時	医師	
		・その他必要な治療を行なう	必要時	医師	

<支援経過>

月 日	支援内容	支援者
○月○○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○市福祉課保護係に生活保護の申請</li> <li>・○市社会福祉協議会で福祉資金貸与</li> <li>・○市社会福祉協議会職員が何らかの障害があるのではと、障害児者相談支援センターにつなぐ</li> </ul>	保護係ケースワーカー 社会福祉協議会職員 社会福祉協議会職員 障害児者相談支援センター 相談支援専門員
○月○○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○市社会福祉協議会職員同席のもと面接</li> <li>・健康福祉センターに本人の情報があるかどうか確認する</li> <li>・○市福祉課保護係ケースワーカーと連絡を取り、情報を得る</li> <li>・本人宅訪問 状況確認</li> </ul>	障害児者相談支援センター 相談支援専門員 // // 健康福祉センター保健師 ○市福祉課保護係ワーカー 障害児者相談支援センター 相談支援専門員
○月○○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人宅訪問 状況確認</li> <li>隣家の方の指導のもと自宅庭の草むしりをしている</li> <li>・本人宅の両隣の家、自治会班長宅、駐在所に行き、に本人のことをお願いする。(何かあったときは、障害児者相談支援センターに連絡くださいと伝える)</li> </ul>	障害児者相談支援センター 相談支援専門員 隣人 障害児者相談支援センター 相談支援専門員
○月○○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣家の方から電話をいただく (小さな女子に興味を持っているらしい言動あり。毎日で歩いているとのこと。)</li> <li>・本人宅訪問 状況確認 本人より、生活保護費が支給されることになったこと、○○/○○に健康福祉センター保健師が訪問してくれることの報告あり</li> </ul>	隣人 障害児者相談支援センター 相談支援専門員
○○月○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○市社会福祉協議会へ福祉資金返済のため来所</li> <li>・相談支援センターに本人来所 生活保護費が支給されたとの報告あり</li> <li>・「○○○○」利用のため、面接を受ける 本人に金銭管理能力ありとのことで契約できず</li> </ul>	社会福祉協議会職員
○○月○日 (○)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○市福祉課障害係に障害福祉でも対応して欲しいことをお願いする --▶○市に住所が移っていないため、現時点での対応は難しいとのこと</li> <li>・○○市福祉課保護係に住所移動のお願いをする --▶移動手続きを進めているが、本人を証明するものが必要で、保護受給証で進めていくとのこと</li> <li>--▶医療券を本人に渡すので、病院通院が可能になるとのこと 通院日については、健康福祉センター保健師と相談し、決まったら連絡するとのこと</li> </ul>	障害児者支援センター 相談支援専門員 障害児者相談支援センター 相談支援専門員 B市福祉課生活保護係